

【参考資料】 第64回研究大会のまとめと反省
(研究内容、方法、研究授業、研究発表、授業力向上のための講義等)

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

III 大会前の諸準備、諸会合について
会場校の決定、地区研、事前研、資料など

IV 大会当日の運営や内容について
日程、授業、発表、協議、アドバイザーなど

V 各研究部独自の意見や要望

○…成果 ●…改善点及び課題
△…提案

<国語部会>

I

[新川地区]

- 文章を書く目的や相手が明確で、よりよい表現を考えて推敲しようという意識につながった。
- 後輩に伝えるための描写や表現の工夫という目的意識がはっきりしていたことが、見通しをもって主体的に取り組むことにつながっていた。
- テキストマイニングというソフトを使って語彙量を視覚化したり、慣用句や比喻を提示して使用する場面を班で考えさせたりするなどの工夫があった。
- 例となる二つの作文を見比べ、テキストマイニングを用いて視覚で語彙量を示すことで、生徒にとって「語彙」への興味・関心を高めることができた。**
- 部会協議の後半で、休業中の課題の出し方について情報交換を行い、他校の様子をすることができたのは有意義だった。
- 大会参加者が分担して、生徒のグループ活動の様子の記録をとっていた。それを基に部会協議で各グループの様子を共有できたので、いろいろな視点から協議できてよかった。

[富山地区]

- 系統だった三年間の積み重ねが感じられる授業であった。
- 生徒の発言では、既習した国語の専門用語を用いることができていた。
- 学習課題が明確であり、観点に沿って読み取るという学習内容を生徒が理解しており、どの生徒も主体的・対話的な学習ができていた。**
- 教材としての資料、学習プリントが生徒の実態に沿っていた。
- 批評文の特徴を生徒が習得していたため、書くという目標を達成しようという意欲が感じられた。
- 指導者が作成した例文を使って、推敲のポイントをつかみ、自らの批評文にも生かそうとしていた。

[高岡地区]

- 学習課題や学習の流れが提示されていたことが、見通しをもつことにつながり、どの生徒も意欲的に学習に取り組んでいた。
- 効果的に主張を伝える上での工夫を、「観点」として提示したことが生徒の気付きを支える手立てとなっていた。
- 参観を通して「観点」を与える学習の利点と、生徒に「観点」を見付けさせる学習の両方の利点について考えることができた。**目的によってどちらが有効であるかが変わるので、自分の授業を見直す機会になった。
- グループごとに観点を分担させて考えさせたことが、限られた時間で課題に取り組ませるための工夫となっていた。
- 一人一人の学びを大切にしている教師の姿が見られた。
- リモート参観に不安をもっていましたが、**教室全体の様子、板書、先生の様子と3つのスクリーンに映し出されており、とても臨場感があった。また、発表する生徒の表情や生徒の視線を追うようにアップになるところもあった。事前準備や連携が素晴らしかった。**
- 授業の視点に絞って話し合いを行ったことで、議論の方向性が一貫し、考えを深めることができた。
- 様々な制限のある状況の中、生徒が活躍することの授業、学びが深まる授業をどのように組み立てていくかということについて、活発に議論され、今後の授業の在り方を深く考えることができた。
- △リモートで授業を参観できることは素晴らしい。画質・音質の向上が図られればなおよい。もう少し進めば、出張の必要もなくなる。
- 少人数での協議会は話しやすく、多くの先生方の意見が聞けてよかった。

[砺波地区]

- 協議会で付箋を使いグループで話し合うことで、授業の分析や改善点が出され建設的な内容となった。
- 授業会場が広く安心して研究授業を行うことができた。
- 授業の初めに映像資料を用いて、「竹取物語」の概要を確認したり、生徒の関心・意欲を高めたりした点が参考になった。
- 教科書だけではなく、国語便覧を初めとする資料や、子供向けの絵本、一般書籍等をふんだんに生徒に触れさせ、作品への理解を深める工夫が見られた。
- 部会協議には、3～4名のグループで論点を絞りながら活発に話し合われた。授業参観中は、生徒の反応を中心に、成果と課題を二色付箋に書き込んだ。授業後、模造紙大に拡大した指導案に貼り付けて、整理しながら改善策について重点的に話し合ったのはよかった。
- グループ構成を事前に行い、所属する学校、経験年数、性別等が各グループでバランスよく混ざり合うように配慮することで、様々な視点からの意見が出され、学び合いの場となった。

II

[新川地区]

- △大きな教室に移動したせいか、生徒が便覧や辞典等を各自持っておらず、一つの班に一つだった。効果的に言葉を使用することを考える時間ならば、全員辞典を利用して調べながら学習した方が効果的だった。
- △うれしい気持ちを表す三語を挙げて各班の発表をした後は、全体の考えを交流する場が必要だった。調べて分かったことや語と語を比較する時間があればよかった。
- △辞書が同じなので、他の班と意見が似ていた。前の班の発表を受けて、同じところ、違うところ等、発表の仕方の工夫が必要だった。
- △意味調べをして、その言葉を使う場面をグループで考えさせたのは、ねらいに対して一定の成果を得たが、意味調べを班で行う意味があったのか。例えば、個人で考えさせてから、全員起立させ、意見が出たら座っていくなど、個人から全体でもよかったのではない。
- △教師が提示した2つの作文例が良かった。生徒が読みやすい量にするとよかった。
- 本文やテキストマイニングがより見えるようなICTの活用を考えていく必要がある。**
- 自分の思いをより分かりやすく伝えるためには、自分の思いを表すのによりふさわしい言葉そのものを知っていないといけない。辞書にある意味を暗記させるような授業ではなく、具体的な場面を設定し、自分の体験と結び付けながら言葉を使う活動が大切になる。そのための課題設定と活動の工夫を考えていく必要がある。

[富山地区]

- 少人数の話合いを全体で共有する方法には改善の余地がある。

[高岡地区]

- △リモートでの授業参観は、会場校が大変である。外部の業者に業務委託するべきである。
- 担当する「観点」についてだけでなく、他の「観点」についても考える時間が必要である。グループで深く考えた内容が、他のグループの生徒にもよく理解され、全体で考えを共有したり深めたりすることが大切である。
- 小学校からの9年間のカリキュラムを確認する時間が必要である。重なり部分は軽重を付けながら効果的に指導する工夫が必要である。**
- 通常であれば、机間巡視をして、生徒の話合い、ノートを確認できたが、画面越しでは難しかった。その場合の様子を詳細に伝える工夫が必要である。

[砺波地区]

- 学校によっては、国語教員1人のところもあるので、勉強になる研修の機会である。日頃の実践を持ち寄って話し合うことができればありがたい。
- 生徒が事前に書き込んだワークシートに、本時に生かしたい言葉が多く見られたので、生徒の考えを引き出す手立て、工夫を考えていきたい。
- 生徒が理解を深めたり、視野を広げたりするために、生徒一人一人の発言をどうつないでいくか、また、板書の仕方を改善していきたい。
- グループ協議を行う際に、授業観察の視点をグループごとに定め、多角的に授業研究を行う。

III

[新川地区]

- 資料の製本や配布が学校ごとだったので、負担が軽減された。
- △**資料のデータを各校で印刷配布する方法は効率がよく、来年度以降もデータ送付がよい。**

[富山地区]

- データで送る方法は大変よかった。ただし、会場校との役割分担は今後検討する必要がある。

<高岡地区

- 今後もデータで送る方法がよい。
- 会場郡市については問題ないが、会場校については再考の余地がある。高岡市では研究大会での授業未経験者が順番に行くため、その先生が所属する学校が会場校となる。近年は、採用5年以内の先生方が研究授業を行っている。若手も中堅以上の先生方も学びを共有できるよう授業者を決めていく必要がある。
- 市や学校によって授業参観の方法に違いがあったのは、違和感がある。統一した方法を提示してほしい。

IV

[新川地区]

- 来年度以降の大会参加者の人数や部会の持ち方について、今回のような形でもよい。各校1人ずつの参加ではあったが、授業参観もしやすく、部会協議では全員が話し合いに参加することができた。

[富山地区]

- 今回「働き方改革」という点において強くご指導を受けた。授業校を会場として借りているため、片付けの時間も考慮し、大会は遅くとも16:15には終了しなければならない。

[高岡地区]

- 研究発表が行われなかった分、協議会に時間を十分にとることができた。次年度以降も、研究発表はなくてよい。
- 研究発表が形骸的なものになってきていること、また、発表資料の準備にかかる時間が取れないことから、これまでも研究発表の必要性について議論があった。今回は、研究発表が行われなかったため、協議会に十分時間を取ることができた分、話し合いが深まったという点で、参加した会員の満足度が高かった。会員数の減少に伴い、近年は研究発表をこれまで通りの郡市ローテーションで行うことも難しいと感じる。授業時数の確保と研修のスリム化を踏まえ、充実した協議会の在り方を追究することに主眼をおいた研修を考えていきたい。
- 授業を映像で参観するための手立てやリモート中継がスムーズに行えるための環境の整備が必要。

V

[高岡地区]

○研究大会はすべてリモートでよい。

△氷見市の部員数が少なく、市の研究大会での負担も大きくなっている。現行の高岡市→氷見市→高岡市→射水市のローテーションではなく、高岡市→射水市→高岡市→高岡市・射水市→氷見市にしていだけないだろうか。

●今回のように参加人数を制限する場合は、「若手の学びの場」と「ベテランならではの指摘」を網羅できる教員が参加する必要がある。全体のバランスを考慮して、部会としての参加教員の推薦を行う必要がある。

●初めての中継での授業参観であったが、3方向からのカメラで音声も思っていた以上によく聞き取れた。反面、今後もこの形式での実施となると自校でできる自信がない。

[砺波地区]

●会場校には広い場所の確保や消毒の準備等、大きな負担をかけたのではないかとと思われる。また、普段とは違う場所、環境での授業は、生徒にも過度の緊張を強いる場合がある。今年度のように特殊な状況の場合は特に、その状況に応じて、紙上研修等、授業参観以外の研修方法を検討するべきである。

<社会部会>

I

[新川地区]

○研究授業は、**タブレットを用いた提案授業**であり、社会科の授業の中で効果的にICT機器を用いる方法について考えるよい授業であった。

○**タブレット端末を使用した資料の提示により、効果的に学習が進められていた。**ほとんどの生徒が2つ以上の資料を比較したり関連付けたりしており、学習のねらいが概ね達成されていた。

○生徒一人一人がタブレットを使用する授業を参観できたことは今後の参考になった。**資料に書き込みをしたり、発表ノートを瞬時に共有したりできることは効果的**である。

○タブレットを使用することで、資料を添付しながら自分の意見を記入することができるため、全体が視覚的な理解をすることができていたように感じた。

○タブレットに添付された資料のため、カラーの上に拡大して見ることができるため、生徒の考えを深めることができたと感じた。

○自分の意見を「発表ノート」にまとめる作業は、時間が確保されていれば、生徒の学習意欲を喚起するツールである。

○学習課題が、歴史的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察するという、研究主題に沿ったものだった。生徒に届く問いの設定であり、生徒は主体的に学習に取り組み、資料を用いて共通点を探していた。

○一人一台の情報機器を使った授業展開をされており、今後の社会科だけでなく、授業や学校の在り方まで考えさせられる充実した提案授業だった。

○協議会は、参加者の間隔をとって、密接しないようにグループ協議をなくし、全体での協議とした。参加者全員の意見をもらうことはできなかったが、リフレクションカードを提出してもらうことで、授業者へのアドバイス等をいただいた。

○指導主事先生の指導助言では、来年度から変更される評価の観点について、変更の経緯や実際の授業をもとに分かりやすく教えて頂いたため、今後に生かせると感じた。

○大会参加者が少なかったことや、広いスペースを利用したことで、授業の参観がしやすかった。生徒一人一人の作業の様子を間近で見ることができた。

[富山地区]

○生徒自身が調べたことを持ち寄って話し合うなど、生徒主体の授業となっていた。主体的に提示に参加する態度を養うことができる授業となっていた。

○**ワールドカフェ方式**で自分の調べたことを発表したり聞き合ったりすることで、互いに刺激し合う姿が見られた。

○生徒の発言の中には「効率」「公正」という言葉がたくさん活用されており、この視点を常にもちながら考えを深めようとしていた。

○**生徒を本気にさせる仕掛けがたくさんなされていた。**模擬政党の立ち上げや公約の練り上げ、選挙ポスター作りや模擬選挙など、準備が大変であったと思うが、生徒の真剣な取り組みが感じられた。

○前面のスクリーンに、授業の展開が表示されていたので、生徒は迷うことなく活動に取り組むことができた。

[高岡地区]

○思考ツールとして、**ダイヤモンドランキング**を活用した。生徒に重視したい政策の優先順位を考えさせることにより、生徒に選択・判断を促すことができた。

○全ての生徒がタブレットPCを使用して行う授業実践の蓄積ができた。**タブレットPCを用いた思考ツールを容易に活用でき、一覧を示すことで「全体の意見」を教師も生徒も把握することができた。**

○タブレットPCの活用によって、ダイヤモンドランキングで示した自分の立場を色分けすることで可視化し、生徒たちの意見の動向が一目で分かりやすくなった。それにより、各意見を聞くきっかけを得やすくなり、判断の理由に注目させる効果があった。

○資料をもとに自分の考えを導き、1人1台タブレットPCを使って各自の考えを電子黒板に提示したことで、生徒の意見の動向が一目で可視化できた。一方、意見が固まった生徒から電子黒板に提示したことで、自分で導いた考えを提示する先に、周りの生徒の意見を確認しながら考えを訂正する生徒も見られた。

○**「機器を使うこと」の有効性ととも現時点における限界も感じられた。**「機器を使うこと」が協働

学習の代わりになるわけではないことを再確認できた。意見の交流を活発化したり、表現力を高めたりするための手法として工夫する必要がある。

- ペア活動やグループ学習を行わなかった（行うことができなかった）だからこそ、学習形態の工夫の大切さが感じられた。本時においても学習形態の工夫の必要性が感じられた。
- 地域教材として、市の活性化や持続可能性を議論することについて、市役所の担当者の動画を用意することで、切実感を出す工夫があった。身近な地方公共団体の政治を題材としたことで、資料から読み取れる情報と自分たちの生活の実体験とを結びつけて考えたり、市役所の職員の方に直接話を聞いたりできたことで、よりよいまちにするために主体的に追究する姿が見られ、よかった。
- 細野先生の指導助言は、研究授業を基にした内容であったので実践的で分かりやすかった。また、新指導要領における評価の考え方については、毎時間に行う「学習改善につながる評価」と、内容のまとまりや單元ごとに行う「記録に残す評価に用いる評価」があり、2種類の評価を指導案に位置付ける必要があり、そのためには、単元を貫く問いを設定し、全体計画から前後のつながりを大切にして本時の計画を作成していくことが大切であることを教えていただいた。細野先生の指導助言で今後に向けての具体的なイメージをもつことができた。
- 研究協議内容を「研修主題を受けての教師の工夫は有効であったか」に絞り、事前に各参加者に授業の視点を示し、コロナ禍でのグループ活動の実態や工夫についてとりまとめた上で協議に臨んだ。部会協議は年齢や経験年数を考慮して4～5人の少人数グループとしたことで、協議の軸がぶれず、活発な協議が行われた。

[砺波地区]

- 単元を貫く課題に沿って、少しずつ主権者としての自覚を促す単元構成になっていた。その結果、毎時間の課題を解決しながら本時の授業までに自分の意見をもてる生徒が多くいた。指導助言から価値判断や意思決定を含む課題による授業を計画的に繰り返すことによって、主権者としての姿に少しずつ近づいていくので、課題の設定や発問構成を工夫して行うとよいと教えていただいた。
- 新学習指導要領の趣旨に沿った主権者としての意識の基礎を育成する授業内容であった。
- 世界各国の投票状況や選挙制度を比較することで、生徒の関心が高まっていた。
- 視聴覚教材を導入することで、生徒の関心を高めた。また、現代の私たちの生活に関連付けた諸問題も浮き彫りとなり、将来の社会への影響を考える機会となった。
- 部会協議では、コロナウイルス感染予防に気を使いつつ、少人数による班（4～5人）を設定して、授業研究を行った。来校する各校の部員が若い世代（20代～30代前半）が多いことが事前に分かったため、班編成を工夫し、若手教員に司会や発表の役割をお願いすることにした。このことにより、部員一人一人が授業や協議への参加意識も高まり、有益な話し合いとなった。
- 指導助言者から夏の教育課程研での講習内容を詳しく話していただくことで、評価基準の作成についての知識を深めることができた。

II

[新川地区]

- 用意されていた資料の中で生徒に使われていないものもあった。資料から気付いてもらいたい視点もあったが、資料の精選が必要である。
- 資料の比較・関連付けを通して、アメリカとイギリスの共通点を見出す活動は、具体的にどこを山場としているのかが曖昧であるように感じた。
- 生徒に提示する資料の内容や量をより吟味することで、生徒の思考力をより深められたのではないかと感じた。それを読み取る時間がどれだけあるかや、ねらいに即した資料であるかなどを吟味することが必要になる。
- 板書の構造化によって明確に共通点を意識させたり、終末に生徒の意見から本時の学習課題をまとめたりすることで、ねらいに近づけたのではないかと感じる。
- 授業または部会協議の際に、生徒に提示した資料が部員にも配布されれば、より深い協議につながると思う。
- タブレットは便利ではあるが、機械的なトラブルが発生した時の代替え等の方法を用意しておけばよいと感じた。
- タブレット活用の利点と書くことの利点とを組み合わせることができるとよい。
- 本時のまとめを全体で共有できるとよかった。
- △新型コロナウイルス感染拡大防止のため、慣例に沿わない準備・運営が行われ、部会責任者の先生や会場責任者の先生をはじめ多くの先生方がご尽力されたと思う。今回の準備・運営にあたり、削減できた業務内容は来年度以降もそのまま減らすことができれば、今後の負担軽減になると感じた。（各校での印刷・製本作業、部員の少数参加など）

[富山地区]

- 答えが分かりやすい課題であったため、オープンエンドのような形の課題にしてもよかったのではないかと。
- 自分たちならどのような選挙制度がよいかについて思考させてもよかったのではないかと。
- ワールドカフェ方式では、質問タイムを設けるとより活動が活発になり、ただ口頭の発表だけでなく、調べた資料をじかに見せたりICTを活用したりすると、より分かりやすく伝わる。調べた事実だけでなく、説明者の思いも確認できる場があればよかったのではないかと。
- グループでの話し合いで出た意見を、全体に広げる場を設けてもよかったのではないかと。
- 自分の考えたことを説明する力をつけていかなければならない。討論までとは言わないが、議論する場を意図的に設定していく必要がある。

[高岡地区]

- GIGAスクール構想の実現によって生徒一人1台の端末を持つことについて、次回からはただ使い

るだけでなく、どのような教育効果を狙うかが課題となる。

- タブレットPCの活用を目的化することなく、あくまで手段として考え、どのような目的を達成するために用いるのかを、明確にして授業をデザインする必要がある。
- ICT機器の活用によって、生徒の思考の動向が色分けにより可視化しやすくなった一方、少数派だった生徒の意見が途中で変わった場面が見られた。生徒の意見の送信結果を提示するタイミングを工夫するなど、使用する機器の機能を研究する余地がある。
- 生徒のグループ学習に制約がある中で多様な意見を引き出すには、可能な限り多くの生徒に発表させ、教師が各発言を価値付け板書するなど、教師が生徒の意見をコーディネートする必要がある。
- 今回は授業前にオリエンテーションがなく、質問などができないまま授業参観となってしまった。質問をメールなどで事前に受け付け、授業者、司会者にまとめて送っておく（回答を準備できるものは当日までにしておく）などすればよい。
- 研究協議では4人グループを基本に、協議の視点を2つ設定してグループ協議を行い、各班の代表がグループの意見をまとめて発表する形をとった。各グループでの協議は意見交換がよく行われており、全員が意見を持って参加するという部分はよかったが、研修会全体としての深まりは不足している感じがした。生徒の授業と同じで、会全体で考えを重ね合わせていくことで、一人一人の思考を深めていく時間も必要であると感じた。
- 今年度のアドバイザー事業が中止となったため、新学習指導要領完全実施に向け、指導主事の先生に単元ごとの評価基準の作成手順に関する指導講話をいただいた。大変内容が濃く、時間をもっと取ってもよかったと感じた。

[砺波地区]

- 提示した課題に対して、生徒が考える材料の精選が必要であった。
- 全体で意見を述べ合う場面が少なかったため、発表する場面があれば、もう少し課題に対してそれぞれの考えに深まりが感じられると思う。生徒が活発に意見交換をするためには、「生徒の考えるネタ・材料はあったのか」を考え、資料を提供する必要があることや、3年生には現実の社会の具体的な事例をもとに考えさせることが必要であると指導助言から学んだ。
- 班で話し合った内容が全体共有されるような場の設定が必要だった。
- コロナ禍での主体的・対話的な学びへの有効な手立てについて検討する必要がある。
- 生徒が他者の価値観に触れる時間を十分にとることで、おさえたい社会的事象やさらなる活発な意見交流が促される。

III

1 会場郡市、会場校の決定

- 前年度よりローテーションが決定しており、会場校の決定には異論はなかったと思う。ただ、コロナ禍の下で開催のあり方については、従来にはなかった様々な配慮を要するため、会場校との入念な相談を要した。（砺波）

3 資料の編集及び事前研修会

- 指導案検討のために集まる機会がもてないことから、部会として授業者をサポートする協力体制をつくりにくかった。どのように進めてきたのかを、郡市や教科横断で情報交換をすることで、コロナ禍の中での研修の在り方を模索していきたい。（富山）
- 事前協議会は、いつもは夏休みに行っているが、本年度は8月中旬に2学期が始まった影響もあり、各校の行事の合間を縫って行われた。しかし、コロナ禍の影響によって学校行事の日程がずれ、忙しい合間を縫って行われることになった。授業者は大変であったと思う。（砺波）

△会議の回数を減らしたり、打ち合わせをメールで行ったりすることの徹底（高岡）

△事前研修会（指導案検討）については、授業者が経験年数の少ない教員になっていくことから指導案作成や、トライ授業などにおいて授業者を全面的にバックアップする取組みを考えていくべきである。例：授業者のねらいを事前に理解できるよう、担当となった市の部員全員での指導案検討会を夏季休業中に実施する。（砺波）

4 資料の製本や配布 等

- 今年度は研究発表資料の製本や配布が学校ごとで行われ、効率的で負担が軽減された。資料の製本、配布は集まるのではなく、データのやり取りで次年度以降もよっていけるとよい。（全郡市）
- PDF形式の資料を各校で製本する方法は、よいと思う。但し、授業者等から資料が届く期限と、各校に送付する日が同日だったため、もう少し時間的余裕があるとよい。（新川）
- 氷見市は、1学期終業式から2学期始業式までの間に5日間閉庁日が設定されたため、指導案検討ができる日が限定された。夏季休暇中に2回指導案検討会を設けたが、部員、特に授業者には多大な負担を強いるものとなった。2学期に入ると各校で学校行事の日程にばらつきがあり、全員が集まることはほぼできなかった。（市一斉部会研修を最終検討会とした）前日の大会会場の設営は、可能な限り市内の部員に参加していただいた。（高岡）

IV

1 運営分担や日程

- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、距離を取って全体での協議という形式はよかったが、参観された何人かの先生方の意見発表だけで協議が進んでしまい、授業者に色々な意見を聞いてもらう時間がなかった。少なくとも一人一回は授業の感想を述べる機会があれば、様々な観点から授業者が今後の授業に生かせるのではないかと思った。（新川）
- 市内の部員の約半数が、指導案検討後の提案授業を参観できなかったもので、市の部会研修の成果の共有という点に課題を残した。このようなやり方は来年度以降踏襲されるか分からないが、会場校となった市内の教諭くらいは全員参加にしてもよいのではないかと。（高岡）

- 部会責任者の負担が大きく、会場校がコロナ禍の影響も考えながら普段よりも配慮して準備を進めなくてはならず、会場設営は大変だったと思う。運動会や、修学旅行の代替としての校外学習等、従来とは異なる時期の実施もあって、準備が大変であったと思われる。（砺波）

2 研究授業

- 授業は広い教室(ランチルーム)を使い、ホワイトボードや電子黒板を使用するなど、例年とは違っていた。班活動も離れた状態で行う等、生徒も慣れてはいない様子であった。（砺波）

4 研究協議

- 集まったのが各校一人であり、社会部会全体の質疑や協議が行われなかったことや、研究協議の時間も短かったため、議論の深まりや研修の機会については本年度は物足りない部分はある。若手である授業者にとってまたとない研修の機会であるとともに、社会科部員にとっても学びを深め、他校との交流の場となるよう、さらに工夫できる余地はあったと思われる。（砺波）

V

- 小矢部市の社会科部会は、人数も少なく年齢層も上がってきており、他地区との交流の機会が多いとありがたい。（砺波）
 - 南砺市の社会部会は部員の半数以上が二十代であり、五十代以上のベテランと若手教員という二極化が進んでいるため、授業力の向上が喫緊の課題である。（砺波）
- △コロナの影響で今年度は難しかったが、**ワークショップ形式の協議や専門家を招いての講義など教科等の専門性を高める機会を設定していく必要がある。**（砺波）

< 数学部会 >

I

[新川地区]

〈研究授業について〉（3 学年「2 乗に比例する関数」）

- 教科書では自然現象が題材として扱われていることが多いが、今回は生徒の興味・関心が高い「お小遣い」を題材として扱った。
- 協議会では、「ダイヤモンドの重さと値段」や「ブリの重さと値段」も2乗に比例しており、授業で扱った際には生徒が関心をもって取り組んでいたという事例報告があった。
- 指導主事より「離散量を扱った内容であっても連続量のようにグラフで指導することは構わない」と助言があった。今後の題材の選び方の参考になった。
- タブレットの画面を生徒に見せている場面で、グラフの表示範囲を容易に変えることができ、生徒の理解につながった。
- タブレットを用いてグラフの一部を提示する確認の場面で、そのグラフを縮小し、全体を見せることで、変化の様子がよく分かるようになった。
- ICT機器を活用することで、内容が視覚的に捉えやすくなっていた。**
- ICT機器を活用して、それぞれの関数の変化の様子を生徒の目の前で操作しグラフで示したことが、生徒の興味・関心を引いたり、理解を助けたりしていた。**
- 生徒は表や式を中心に考えていたが、教員側から最後にグラフを提示したことで、一目で変化の様子が分かるというグラフの有用性を感じることができた。
- 授業終了後も生徒が何名か授業者のもとへ行き、質問をしたり意見を述べたりしていた。生徒の意欲を引き出すことができた授業であった。
- 指導案を読んだ段階では授業の展開がよく分からず、条件が不足しているのではないかと考えたが、逆に条件を与えないことが生徒の学び合いにつながっていた。

〈研究協議について〉

- 指導主事より、来年度から実施される評価の変更点について、具体例をあげて評価の仕方や注意点について指導いただいた。指導と評価の一体化についての指導助言を聞くことができてよかった。

[富山地区]

〈研究授業について〉（1 学年「比例と反比例」 / 3 学年「三平方の定理」）

（1 学年）

- 最初から分かっていた人ではなく、教えてもらった人が分かりやすく説明できていた。
 - 関数の式以外にも、小学校で学習した方法から比例式まで、様々な方法を学ぶことができた。
 - 4人グループで教え合う生徒の姿が印象的であり、**グループ活動が効果的であった。**
 - 振り返りカードが、4つの視点の中から生徒に選択させて書かせるなど、工夫されていた。
- （3 学年）
- ピタゴラスの話を導入で取り入れたことで、生徒の興味関心が高まった。また、ワークシートを上手く活用していて、生徒の学習内容の理解に効果的であった。
 - ファイルでプリントを積み重ねて授業を行っている点がよかった。過去の振り返りをするときもページ数を指定すれば全員が同じものを見ることができ、とても便利である。**振り返りやまとめの時間をとり、意見を共有することがスパイラルな学びに繋がり、重要である。**

〈研究発表について〉

- 表・式・グラフの関係性、関連性の理解は非常に難しい部分であり、ゲーム形式で取り組ませるのは効果的であった。
- 生徒たちが取り組み易く、苦手な関数領域を復習できるよい教材である。**生徒自身がゲームのルールを決めることで、興味関心はもちろん、数学が苦手な生徒も楽しみながら取り組むことができるよい教材である。**

[高岡地区]

〈研究授業について〉（1 学年「比例と反比例」 / 3 学年「数と式」）

- 節度ある中で、生徒は前向きに授業に取り組む雰囲気があり、数学が得意でない生徒も生き生きと学習していた。

(1 学年)

○関数の導入の授業であり、封筒から画用紙を引き出したときにそれにもなって変わる多様な数量について考える内容であった。数学用語を使って説明させる振り返りを行うことによって、関数を意識した学習を進めることができた。説明する活動を繰り返し取り入れることで表現力の向上が見られ、また、互いに説明し合うことで対話的な学びにつながっていくと考えられる。

○前時に、小学校の復習である比例、反比例をまとめ、本時の最初に提示していた。

○**授業規律やT1とT2の作業分担、ICTの効果的な活用法について参考になった。**

○「点をつないだ方が変化の様子が分かりやすい」の発言から、グラフを直線でつなぐことはよい流れだったと思う。

○授業で説明をさせることで定着を図ったり、授業後の感想で数学用語を用いてまとめさせたり、生徒の深い学びにつながっていた。

○ペア学習をするにあたって、発表の仕方がきちんとプリントに提示してあった。

○ペアで話し合うことで、多様な考えに触れることができる。

○ICT機器を使つての発表がよかった。

○生徒の考える力をつけさせるため、教材や授業展開などよく考えられた授業だった。

○モニターに映した生徒のワークシートがはっきりと見え、分かりやすかった。

○教具の工夫として、封筒が透明になっており、中の厚紙の変化の様子を分かりやすくする工夫がしてあった。

○研究主題の「振り返りの場面の充実」を意識した授業実践であった。

○授業の振り返りを文章で書く際に、キーワードを指定し、振り返りの視点を生徒に与えていた点が参考になった。

(3 学年)

○タブレットPCを活用し、カレンダーの中にある数の規則性から、ヒントを手がかりにして誕生日を求め、説明する授業が提案された。生徒は、それぞれが学習してきたことをタブレットPCから引き出して既習内容を振り返りながら問題に取り組んでいた。導入で、前時までの振り返りを行うことで学習内容を復習し、終末では本時の振り返りで感想を記入することで学習内容の定着を図ったことがよかったと考えられる。

○意欲をもって、粘り強く取り組むことができる学習課題であった。

○T1、T2の役割が明確で、個別に支援が必要な生徒に適切に助言されていた。

○**課題の参考になる資料がタブレットのフォルダに用意しており、課題の解決の手助けになっていた。**

○タブレット端末を効果的に活用することで、生徒の学習意欲が向上した。

○課題設定の面白さ、タブレットの活用方法等、今後の指導の参考になった。

○生徒一人一台学習端末の授業活用に向けて、様々な気付きを得ることができた。

○授業後に振り返りをし、それを全体で共有することで、より深い学びにつながった。

〈研究発表について〉

○互いに作図方法を説明する活動を繰り返していくことによって、数学的な表現力が次第に向上していった。2年次以降の論証につながると考えられる。また、3つの基本的な作図方法をどのような場面で使うかをまとめさせたことは、思考を整理し、知識を定着させることにつながると考えられる。

〈研究協議について〉

○**部会協議は少人数であったため、要点を絞って話し合うことができた。**

[砺波地区]

〈研究授業について〉 (2 学年「1 次関数の利用」)

○担任の教師が冷蔵庫購入を検討しているという、生徒の興味を引き出す身近な題材設定であった。

○日常の事象を題材にした、生徒にとって身近で関心ももてる内容であった。

○課題提示の仕方が工夫されており、生徒は見通しをもって課題に取り組むことができた。

○生徒は、表・式・グラフのそれぞれのよさを実感しながら、相互に関連付けて説明していた。

〈研究協議について〉

○新学習指導要領における評価について、各自が悩んでいることを話し合うことができた。また、意見交換をして理解を深めることができた。

○新学習指導要領における評価の基本的な考え方について説明していただき、少しずつではあるが理解が深まっている。

〈運営について〉

○コロナウィルス感染拡大防止のために広い会場で授業を行ったのはよかった。

○コロナウィルス感染拡大防止のため、市中教研の会合もすべて中止となったが、**市内校務連絡システム(EDUCOMマネージャーC4th)で連絡を取り合うなど、連絡体制を強化することができた。**

II

[新川地区]

〈研究授業について〉

●授業の題材になった「身近なこと」が、実際にはそうではなかった。 $y = ax^2$ の身近な例が物理的になってしまい、適当ではない。授業の題材として使えるものを探すことも必要である。また、今回の授業ではお小遣いについてだったが、発問の仕方や数値を検討すればもっとよくなるテーマであった。

●数値を教員側で決めてしまっていたために、計算の得意な生徒は早々に終了し、退屈そうであった。追加の発展的な課題があってもよかった。

●課題とねらいを一致させる。

△積極的にグループ活動は取り入れられていたが、今後は話合いの目的や指示等を明確にすることで、より焦点化された話合いとなるよう工夫しなければならない。

△ $y = ax^2$ の指導で、具体的な事象を扱う際には計算が煩雑になるので、ICT機器や補助教具の使い方を工夫してい

く必要性を強く感じた。

△今後1人1台タブレットが貸与される。授業に導入するにあたって利用の仕方を研究していく必要がある。

[富山地区]

〈研究授業について〉

●一部の生徒が斜辺を利用して正方形をかけなかったため、検証が進んでいなかったのも、ヒントカードやペア学習等の手立てを取り入れる必要があると思われる。

△斜辺を1辺とする正方形の面積の求め方をスクリーンで説明したのは効果的であった。その反面、板書には残せず、教師が確認のために再度かくことがあった。今後、ICTを活用していく上で、板書とスクリーンの在り方について、どのように進めていけばよいかは課題である。

〈研究発表について〉

△関数トランプの教材は、数学が苦手な生徒にとって、ハードルがかなり高いのも事実であり、そのハードルを下げるための手立てをさらに検討する必要がある。

[高岡地区]

〈研究授業（1学年）について〉

●授業の結論やまとめを一つに絞り、（関数であるかないかの説明なのか、変化の仕方の説明なのか）それに向けての絞った支援が必要であったと思う。

●生徒に数学的用語を正しく使わせる指導が必要だと感じた。

●2つの数量 x 、 y を見付けさせる課題に対して、「どんな関係性があるのか」「どんな変化の様子なのか」を生徒自身の言葉で書かせたり、説明させたりする工夫があればよかった。

●**ペア学習について、選んだ課題が異なる場合、説明を聞く生徒が相手の説明内容を理解したり、質問や訂正をしたりすることがしっかりできるかが問題であった。**

〈研究授業（3学年）について〉

●グループで説明し合う活動は、生徒の表現力を伸ばすために有効であると思うが、本時の授業では、説明を書く時間が足りなかったため、途中計算が分からないまま友達の考え方をそのまま写す生徒がいた。難易度の高い学習内容であったこともあり、時間配分の難しさを感じた。

〈研究発表について〉

●研究発表の資料が見にくかった。生徒のワークシートも資料があればよかった。

●長時間になってしまったので、もう少し端的にまとめることができればよかった。

●研究主題との関連について、どのような視点で研究主題に迫ったのか曖昧に感じた。数学的活動や振り返りの時間を工夫するなど、授業者がどのような点で工夫したのか、どのような方法で研究主題の解明を考えたのかを明記する必要があると感じた。

△生徒の発言を引き出して板書を構成すれば、対話的で深い学びにつながるのではないかと。

〈運営について その他〉

△研究大会の研究授業の単元が、時期的に同じところが多いので、様々な単元で授業が行えるような工夫が必要である。

△今後、1人1台の学習端末が全生徒に配付されるので、それらを活用した授業実践を研修していきたい。

[砺波地区]

〈研究授業について〉

△振り返りを工夫し、問題解決の過程でうまくいったことや新たに気付いたことを整理するなど、生徒が学習の成果を確認することを大切にしたい。

〈運営について〉

△記録の引き継ぎについて、来年度の授業会場や分担、学習指導案作成までの流れを確認するために、過去の資料を参考にする必要がある。授業会場が3市ローテーションのため、来年度から3市の部長が共有する体制を整えたい。

III

（1会場郡市、会場校の決定 2地区研究会 3資料の編集及び事前研修会 4資料の製本や配布）

[新川地区]

1○これまで通り、郡市での持ち回りで行うのがよいと思う。

2△会場責任者と部会責任者が同一校であった場合には、地区研究会への参加は1名でよいのではないかと。

4○データを各校にメールして頂いた。効率的でよいと思う。今後も継続してほしい。

4●資料をメール添付で各校に配布する方法は効率的だったが、ファイルが開かないトラブルがあった。

4△製本等、本年度のように集まることなく、各校での準備でよい。ただ、授業者から資料が送られて、製本し、各方面へ郵送するまでの期間があまりにも短かった。せめて、副部長への提出日と郵送締切り日を最低でも3日は開けてほしい。

[富山地区]

1△数学は、会場校が先々まで決まっているが、実技4教科は先生で順番が決まっているため、異動があるごとに会場校の見直しが必要である。他地区ではどのように決定しているのか。

[高岡地区]

3●今年度は、指導案の検討を十分に行ったとは言えず、授業者をはじめ関係者に申し訳なかったと考える。

4○**学習指導案のデータ配信や各校での資料印刷は、来年度以降も継続して行えばよい。今年度は、コロナウイルス感染拡大予防の関係で印刷・製本のための会合がなかったことは、負担軽減につながったと考えられる。来年度以降もこの形式を強く要望する。**

[砺波地区]

1△会場校決定までの流れを明確にするべきである。

4○来年度以降も今年度と同じように、データで送付し、各自で印刷する方法が望ましい。

研究資料は、次年度以降もPDFファイル送付を継続し、製本・発送作業の負担を軽減する。

IV

(1 運営分担や日程 2 研究授業 3 研究発表 4 研究協議 5 授業力向上のためのアドバイザー講義)

[新川地区]

1 ○校務運営上、今回のように参加者が各校原則1名であるとありがたい。(参加者が他の部員に伝達する方法でいいのでは)

1 △本年度のような縮小した研修会でもよいと感じた。各校で同じ教員が毎年行くことがないように取り計らっていただければと思う。

1 △例年通りがよいと思う。

2 ○例年は教師の人数が非常に多いが、今年度は少なく観覧しやすかった。今後も人数を調整してもよいと思う。

2 ●事前に配布されていた指導案やワークシートには、中学校で扱わない範囲が出てきていたので、どのように扱って授業をするのが非常に楽しかった。しかし実際は、想像していたものとは異なる扱いだっただけで、事前の指導案と実際の授業では、進度やその他の事情で、多少の差異があっても仕方がないとはいえ、未習範囲を敢えて扱うのではないかと期待して参加したため、ある意味残念だった。

3 △例年通りがよいと思う。

4 ●時間が短く重要なことをメモする時間もなくて大変だった。余裕をもって聞ける講義がよいと思う。

4 ●指導主事に質問をする時間がなかった。質疑応答の時間をとっていただきたい。

4 ●今回は、出席者が少なかったため、いくつかのグループでじっくり討議してから全体協議にした方がより深まったのではないかと感じた。

4 △教師がグループをつくって自由に話す場があるとよいと思う。

[富山地区]

2 △数学では、部員数が多いので、今後も3つの授業公開が望ましいが、今年は急遽、2つの授業公開に変更になり、部員の参加人数がかなり減った。(110人中60人参加)

[高岡地区]

4 ●研究主題の「振り返りの場面」について、指導助言の先生の話聞くことができればよかった。

1 ●部会協議①、②とも、時間を越えてしまっていた。時間の配分に工夫が必要である。

1 ○大会の時間や参加者数も含め、来年度以降もこの形式でよいのではないかと感じた。

[砺波地区]

1 ○14時10分からの授業開始を継続する。

1 △参加できなかった会員から、来年度はぜひ参加できるようにしてほしいという要望があった。

2 ●本時の学習指導案だけでなく、前時の学習内容や、次時へのつながりが分かるものがあればよかった。

V

[新川地区]

●学習内容の難易度がやや高いものであった。深い学びにつなげられるよい機会ではあったが、全員が参加できる内容ではなかったのかもしれない。

△透明ボードを効果的に活用し、話し合い活動を活発に行わせたい。話し合いにはたくて濃いホワイトボードマーカーがたくさん必要なので、その確保が課題である。

●今回は部員数が少なかったせいか、研究協議での深まりが感じられなかった。感染防止対策を考えながらの協議なので、班での話し合いは難しいが、もう少し工夫があってもよかった。

△中教研大会の時期が毎年10月で、どの学年にしても授業で取り上げられる単元が決まってきた。例えば、すでに学習が終わっている単元でも、主体的に学習に取り組む態度を評価できるような提案授業が増えてきたらよいと感じる。または、提案授業を2年で2回等ルールを決め、10月に限らず幅広く開催できるようにしたらどうか。

△数学部会においては、毎年若い方が研究授業をする。授業に至るまで身近にいる人がしっかりとサポートしてあげるのももちろんのこと、授業者本人が、もっと真摯な気持ちで教材研究やトライ授業をする必要があるのではないかと感じた。

[高岡地区]

●それぞれの学校の代表者のみが授業を参観した。もっと早い段階で縮小実施の件がわかっていたら提案授業は1つでもよかったと考えられる。

<理科部会>

I

[新川地区]

○事前に自分たちが実験方法を考えることによって、実験を行う生徒の姿に主体性が見られた。また、生徒はこのことにより実験の意味を理解しているため、本年度の研究主題につながる授業であった。

○研究授業では、タブレット端末で表計算シートに実験中に即入力、グラフ化することが、授業時間の短縮につながり、その授業内に思考を深める時間を十分に確保する点で有効であった。

○研究授業では、事前にグループごとの実験方法を計画しており、生徒は主体的に探究を進めていた。

○研究発表は、普通の教科書だけでは知り得ない知見を得ることができ、非常に有意義であった。生徒が自分の郷土に対して科学的な興味をもてるような授業改善の余地があることに気付かされた。

[富山地区]

○1年生の授業では、既習事項を使って物質を取り出す実験方法を考える発展的な授業内容だった。よりよい実験順序をフローチャートやマグネットを使って考え、さらに、ヒントカードを準備して考えやすいよう工夫されていた。個で考える時間を確保し、その後、班、そして全体へと広げていた。班内を半分にして発表することで対話的な学びにつながった。

○2年生の授業では、密を避けるために体育館を使って行った。校舎敷地内の4つの測定場所を班ごとに巡回して気象要素を調べる観測は、生徒にとって貴重な体験となり、測定技能を高める活動になっていた。

[高岡地区]

- 授業前半で獲得した知識を活用し、理解深化課題（活用課題）に取り組むことで、獲得した知識の理解が深まった。実験方法を工夫することで、簡便で精度の高い実験を行うことができた。
- ICT機器を活用することで、実験結果の集約を簡便化することができた。
- 先行学習により授業を行うことで、生徒一人一人が、見通しをもって学習に取り組むことができていた。

[砺波地区]

- 班での意見交流にワールドカフェ等を使い分けることで、生徒同士の関わり合いが生まれ、考えを深めることができた。
- 実物投影機やスクリーン等のICT機器を各班の発表に効果的に使っていた。
- 研究授業では、科学的探究の方法として問題解決的な学習を取り入れていた。既習事項を踏まえて仮説を立て、実験に取り組むことによって研究主題の解明を図った。
- 部会協議では、部員を4つのグループに分けて小グループでの話し合いを行った。若手とベテランの教員が同じグループに入るよう配慮し、フリーカードを使った集団リフレクションの方法を取り入れた。赤色の付箋には、生徒の学びが成立したところ・深まったところ、参考になった点を、青色の付箋には、課題と思われる場面、気になったところ、質問等を記入することとした。あくまでも授業批判ではなく、提案型の建設的な意見交換が行われるように共通認識を図った。

II

[新川地区]

- 研究授業は、反復試行する実験ではできる限りすべての実験結果を記録することが結果を解釈する上で有効である。実験方法を計画させる際に、基本的な留意事項を各班に説明するとよい。また、生徒の取り組みを的確に評価するためには、学習課題を解決させるための学習活動となる必要がある。
- 自作した教材は、うまく活用できず、市販の器具を改良して使用した。うまくいかなかった理由を考え、改善に生かさなければならない。
- タブレットの画面を学級全体で共有したが、学級での議論の深まりがもう少しあってもよかったのではないかとと思われる。
- 生徒が目にした速さと質量の視点について、両方を合わせて考えさせる手立てを工夫しなければならない。規則性を正しくおさえていく必要がある。
- ねらいと課題が一致していなかった。エネルギーを定量的に考えさせるためには速さや高さや移動距離の関係性を考えさせる課題にすべきであった。
- 研究授業では、実験結果の記録、解釈をする上で、タブレット端末が有効に活用されていた。生徒はタブレット端末の使用に十分順応しており、日頃からICT機器を授業に取り入れることで授業の幅が広がることが感じられた。グラフの作成の仕方など、アナログで行うべき学習活動もあるので学習活動の目的に応じて使い分けていくことが求められる。

[富山地区]

- 見通しをもって観察、実験するには、何のために行うのかを明確にし、課題意識をもたせる必要がある。
- 測定結果をもとに考察したり、個々の生徒が主観的に感じたことを意見交換したりする場面が必要である。

[高岡地区]

- 理解深化課題の解明ではなく、本時のねらいである知識の深いレベルでの理解へ生徒の思考を向かわせるための発問の在り方について考える必要がある。
- 本時のねらいである知識の深いレベルでの理解へ生徒の思考を向かわせるための理解深化課題（活用課題）の在り方について考える必要がある。
- 本時で取り組ませた知識活用課題の難易度については検討の余地があったのではないか。
- 知識活用課題で結果を予想させた場面では、予想の根拠をもう少し生徒の口から言わせた方が、その後の活動がより深まったのではないか。
- 落下運動の実験でエネルギーを定量的に扱った後、活用課題では定性的に捉えていたように感じた。力学的エネルギーの保存を初めて学習した生徒に対して活用課題が難し過ぎるように思われた。ふりこを用いた課題でもよかったのではないかと思った。

[砺波地区]

- 授業参観者は原則各校1名の部員であったが、経験年数の少ない部員で参観できない部員が数名いたことが残念だった。授業で撮影した動画をDVDに焼いて配布していただき、部員全体で授業内容を共有できた。
- 部会協議をグループで行ったため、十分な時間を確保することができなかった。

III

[新川地区]

- 新型コロナウイルス感染症予防のため、資料データを各校に配布し、必要部数を各校で印刷という形であったが、今後この方法がよい。
- △今年度は夏季休業が短縮されたため、2学期の始業式の日が地区研究会の日になってしまった。例年とおりの夏季休業中に開催してほしい。また、地区研究会の日に事前研修会も行いたい。

[富山地区]

- 資料をメールで各校に送付したが、特に問題はなかった。製本の労力等を考えるとよかった。

[砺波地区]

- 指導案検討会2回とFAXでの指導案の読み合わせを行い、十分に指導案の検討ができた。
- 今年度は、各会員にはPDFファイルでの資料配付にすることにより、各学校への封筒詰めや届けるといった負担がなくなった。来年度にも続けられたいのではないか。
- 事前研修会、指導案検討の会合があまりできず、メールでのやりとりになることが多かった。
- 会場校への負担が多かったように思える。地区内の部員へは市部長から各校教科主任や各校部員に印刷を依頼した。効率的であったが、印刷代等各校に負担をかけるのは問題がある。

IV

[新川地区]

○研究会当日の運営等については今年度の形でよい。

[富山地区]

○**全体会を行わずに2部会で協議をおこなったので、密になることはなかった。協議会では、小グループになって意見交換をする場面があり、日頃の授業成果や悩みが活発に語られ、教師同士の学び合いの場となっていた。**

●体育館では長机を使って授業を行ったが、密にならないようにするためにもう少し生徒同士の間隔を広くすればよかった。

●今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のために特別な配慮を必要としたので授業者、会場校での負担が大きくなったのではないかと。

[高岡地区]

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参観者を教室に入れることができず、オンラインでの参観となり、授業の様子が参観者に十分に伝わったかが心配である。

●高岡市の理科部会として研究大会の授業について指導を受けた先生にも授業を参観いただき、指導を受けたかった。実現できず残念であった。

[砺波地区]

●部会協議では、授業と研修主題解明だけで時間いっぱいであった。各校の取組や意見交換の時間が設けられるとよかった。

△**授業力向上のためのアドバイザー講義は、今年度中止になったが、来年度以降の実施を検討していただきたい。**

V

[新川地区]

△「主体的に学習に取り組む態度」は、生徒の様々な姿で見取ることができる。それらをどのように評価していくかについて、意見を交わす機会があるとよい。

△学習の進度や中教研学力調査のため、毎年同じような単元で研究授業が行われているので、様々な単元で授業が行えるようにできたらよい。

[砺波地区]

○**今回、ベテランの先生が授業をされ、中堅や若い先生方に対して師範授業と言える内容であった。今後、若い先生方が増えていくことを考えると、研究大会においてベテランの先生が師範授業を行い、それを参考にして、市研究授業で若い先生が研究授業を行えば、ベテランも中堅や若い先生方も授業力向上につながると考える。**

●授業の様子を映像として残すためには、複数の視点からの動画が必要である。

<音楽部会>

I

[東部地区]

○導入のウォームアップや生徒の発言等、日頃の指導の成果がよく表れていた。

○生徒の興味を惹き付けるため、2種類の肖像画や遺言の訳文、第2楽章の鑑賞等、教材の準備や授業展開の工夫が見られた。

○第2楽章を導入に使用したり、肖像画を2枚並べて提示の工夫をしたりしたことで、生徒の興味関心が高まった。

○作曲した頃の若い写真や遺言（全文朗読）の提示や第2楽章を聴かせる導入等、作品も人生と同じく多面的であることが生かされていた。

○**「作曲者の人生」という切り口から生徒の多様な意見を引き出したことで、生徒の関心が高まり、次時の授業にも繋がっていきと感じた。**

○作曲者の思い等を想像しやすく、興味をもって取り組める工夫がたくさんあった。これまでの授業を通して、音楽鑑賞の仕方、聴き方が身に付いているのだと感じた。

○1時間を通して、生徒の意欲や緊張感を持続させるスキルが見られ、素晴らしいと感じた。

○とてもよかった。今までの積み重ねを経ての今回の鑑賞授業はとても参考になった。若い先生方にとっても学ぶことが多く、協議会後も質問したいとの要望があり、一緒に聞かせていただきました。

○経験豊かな先生の素晴らしい鑑賞の授業を見られてとても勉強になった。

○先生自身の音楽（この作品）への愛情が、発言の端々に表れており、生徒によい影響があると思う。

○全員均等に発言の機会が与えられていることで、積極的に授業に取り組もうとしていた。

○これまでと違った展開の工夫や学習指導の流れを示していただき、自分もやってみようと思った。

○生活の中で音楽に携わることができるような授業の展開であった。

○正反対のことを比較しながら興味・関心を引き出すことができたと思う。

○作曲者の生涯や作曲した背景を知り、作曲者の思いを考え音楽を聴くことは、研究主題の「音楽的な見方・考え方」を引き出すことに効果的であったと思う。

○本時の視点はよく工夫され、効果的であった。視覚資料や既習事項を踏まえたことで生徒たちの興味・関心は十分に高まっていた。

○板書が大変整理されており、まるで大きなノートを見ているかのようにまとめ上げられていた。板書計画の大切さを改めて感じ取ることができた。

○この時期の大会では合唱の取組が多いが、**鑑賞の共通教材の授業を見ることができて有意義だった。**

○ワークシートの変遷、実践の反省や授業改善についての掲示物が大変よかった。

○来年度からの指導について、指導助言を聞くことができ、よかった。

○形式を教える授業ではなく、作曲者の思いと音楽表現とを結び付けて曲を味わい、鑑賞する授業となっていた。

○第2楽章から始めることでギャップを感じさせ、興味・関心を高める導入はよかった。

- 交響曲やオーケストラの説明は画用紙にあらかじめ書かれており、説明の時間が省かれ、後半の伝え合う時間の確保に繋がっていた。
- 導入部分で行われた歌唱の様子から、毎回の授業の積み重ねを感じた。
- 前半の授業のテンポが非常によく、生徒は自然と引き込まれていった。後半の時間確保にも繋がった。
- 様々な角度から生徒に問いかけておられた。教材研究が丁寧に行われているのを感じた。
- 第2楽章の冒頭の鑑賞から始めたり、雰囲気異なるベートーヴェンの肖像画や遺書を掲示したりしたことは、曲の背景にあるベートーヴェンの人生や生き方に興味・関心をもたせることにつながった。
- 生徒の感想や気付きに対して、ベートーヴェンはどんな気持ちを表したかったのかを問いかけ続けたことは、個々の「音楽的な見方・考え方」を深めることにつながった。
- 本時の授業は、次時の学習への動機付けとして有効であった。
- 〔西部地区〕
- 創作と演奏表現を学ぶ表現活動の在り方。
- コロナ禍における音楽活動の在り方。
- 難しい題材を取り上げていただいて、とても参考になった。
- 楽器の素材によって音の高低や音色を体感させ、人数を変えたり交互にしたりすることで強弱に生かしたところ。
- 来年度からの、新学習指導要領に基づいた3観点での評価基準も示されていたので、とても参考になった。
- コロナ禍で、表現活動がなかなかできない中で、創作と鑑賞を関連付けた授業を提案していただき、とても勉強になった。創作については、これまであまり取り組んでいなかった方にも簡単に取り組みそうで、かつどの学校でもできそうな授業を提案してくださったので勉強になった。**
- 題材がリズムアンサンブルで、手拍子や日用品が楽器となることから、普段の授業においても取り組むことができる授業提案であり、とても有意義だった。また、合唱、器楽等と比べて、飛沫感染を気にすることも少なく、コロナ禍においても取り組みやすいものであり、自分も取りみたいと思った。部会協議での指導助言も、来年度からの評価方法についての話があり、とても勉強になった。
- 冒頭の演奏の発表を映像にされたのがよかったです。客観的に自分の演奏を聴くことができていたと感じたからです。
- 最初の発表の方法を動画にしたことがよかったです。生徒にとって失敗しても撮り直せるという安心感があり、教師にとっても他のクラスのよいものを紹介できるというメリットがある。
- グループごとに発表してから全体で話し合うことで、作品の完成に向けて可能性を広げるのに有効であると感じた。
- 「STOMP」の鑑賞によって、生徒の表現への意欲が高まっていた。鑑賞と表現の関わりが効果的な授業であった。
- 指導助言では、新学習指導要領に対応した評価についてご指導いただいた。
- コロナ禍に対応した、声を発しなくてもできる授業を提案していただいた。
- 身近な音素材を使った創作の授業を提案していただいた。
- 創作の実践例を参観することができたのは貴重な経験だった。
- 生徒が興味・関心をもつ題材設定の工夫がおもしろかった。
- 小学校の学びを把握することの大切さを感じた。**
- ワークシート作成等の事前準備の大切さを感じた。
- △自分の授業でも、創作の源である「イメージをもつ」ことを大切にしていきたいと思った。
- 研究協議では、授業の内容についてさらによくするために必要なことについて、たくさん意見が出て参考になった。
- 授業、題材のゴールを明確にした指導案の書き方、指導の手立てについて考える機会となった。

II

〔東部地区〕

- 授業のねらい、学ばせたいことに対して、扱う教材が適切であったのか、吟味する必要があったように思う。
- 古典派音楽の特徴を踏まえた教材曲の音楽的な分析が必要である。
- 教材曲と指導内容との関連を十分図るとよい。（「教材を教えるのではなく、教材で教える」とよくいわれました。
- 次時への大きな導入の意味合いの強い授業だったことと、1人1回授業者が生徒へ指名して発表する形式の授業だったので、どのようなことができているか（ワークシートに書いてあれば）どのような評価をするのか気になった。
- 感染症対応をしなければならぬ状況が続くようであれば、今後の研究授業をどうしていけばよいかを考える必要がある。合唱や器楽の授業は可能か？会場校や参加者等はどうか？
- 今年度は感染症の影響もあり、削減したり、工夫したりして運営を行ったので、今後、どのようにしていくか検討すべきではないか。
- 作曲者の思いも大切であるが、形式による美しさの味わい方をどのように指導するか研究が必要である。
- 授業前のオリエンテーションがあればよかった。またはそこで説明したい、授業者の思いや意図がわかる資料があればよかった。
- 研究授業の立候補をどうしていくか。
- 生徒の気付きや感想の中からソナタ形式を押させることを想定していたが、本時ではできなかった。丁寧に楽曲構成や形式について押さえるためには、全2時間の指導計画を3時間に変更することも考えられる。
- 伝え合う活動の、音を確認しながら考えを深める場面では、展開部の場面を抜き出したが、第2主題の部分抜き出して聴かせたほうが、短調と長調の雰囲気の違いが明確に感じ取ることができ、よりベートーヴェンの気持ちを考えやすかったかもしれない。

- 本時では、短い言葉であっても全員が自分の気付きや感じたことを発表させたが、深まりを求める場合には、よく感じ取っている生徒の発表を軸に、意図的指名で深く掘り下げていく方法もあったのかもしれない。
- いつも使用している音楽室ではなかったの、音響設備が悪かった。今回の場合のように、どうしてもできない場合もあるが、鑑賞の授業の場合は、できるだけよい音響環境を整える必要がある。
- △公開授業ができる状態なのだから、フェイスシールドは必要だったのか。むしろフェイスシールドをしなければならない環境では公開授業をすべきではない。
- △3観点における評価について研修する機会があればよい。
- △3観点による評価を授業の中でどのように行っていくのか研修があればよい。
- △参加者の控室がなく、荷物も置けず、参観中は大変だったと思う。せめて椅子があればよかった。
- △前述の掲示物を控室に掲示する等工夫し、授業前に見られるとよかった。
- [西部地区]
- 創作することがゴールではなく、つくることを通して何を知覚・感受させたいのかが大切だと改めて分かった。(教師は、それを明確にすることが大切)
- 今のように授業を進めておられるのか、情報交換ができればよかった。
- 音楽科におけるICTの活用。
- 音楽の授業におけるICTの効果的な活用にあたって、教師だけでなく生徒の使用について、もっと考えていく必要があると感じた。
- △創作では、特に最初の指示によって大きくゴールが変わる。また、最初の指示だけでなく、創作していくにあたって、生徒同士が共有することによって、生徒がイメージをもつことにつながる。その共有ができるよう、教員の言葉がけも重要になってくる。
- △ICT機器環境が充実し、生徒自身が使いこなせるとよい。合唱練習や創作では、生徒自身が変化を感じられるように各グループに録音機やipad等を配布し、見返したり聴き返したりできると更に学習が深まる。
- △これから先も各校から1名のみの参加でよいのでは、と思った。(参加した先生の意見 1名)
- △研究大会のために、大変な開催学校側の負担が少しでも減らせる方向に行けばよいと思った。
- △グループで活動する場合の、個々の評価の在り方について今後学びたい。

III

1 会場郡市、会場校の決定

○**授業者の地区ローテーションの見直しで新川地区の負担が軽減されたことはよかった。**

- ベテランの先生の授業では、長年の経験を生かした実践が行われ、また、協議会でも授業改善の具体的な話を聞くことができ、大変勉強になった。

2 地区研究会

3 資料の編集及び事前研修会

- 運営委員は早めに集合したが、会場校の勝手が分からず、準備面でうまくいかなかった面がある。会場校での事前研修会は、やはり必要であると感じた。

4 資料の製本や配布 等

- メールでの資料配付は、様々な手間を省くことができるともよかった。
- コロナ禍において、感染予防をしながらの準備・運営ありがとうございました。
- △メールで各自が製本する方法は、事前に集まらなくてもよかったので継続してはどうか。
- PDFデータでの配布がよかった。
- 来年度以降も、製本作業をなしにして、PDFで送付すればよい。**
- 今回のようにメールでのデータ配布にすると、各自が必要な大きさで印刷などできるのでよいと思った。
- 今年度のように資料はメール添付による配布がよい。しかし、一部の方に負担が多くなるのでしょうか。
- 会合の回数が減少するので、来年度以降も指導案はメールにて送付し、各自製本をすればよい。
- 製本のための時間が省けるので、指導案がデータで送られてくるのがよかった。
- 今年度は、コロナ対策で指導案がペーパーレスでデータ送信されたが、来年度以降もこの方法でやれば、集まる機会が1回減り、負担軽減につながると思う。
- 資料の送付は、各地区の部会責任者から学校代表アドレスに送付との指示であったかと思うが、多くの部会では郡市部長を通して配布されていた。また、部会によっては会員に直接送付されていた部会もあった。本年度は、初めての試みであり、なかなか統一できなかった面もあるかと思うが、各教科の県部長や部会責任者、郡市部長間で送付方法の統一を図る必要があると考える。**
- △**昨年度までの紙媒体の送付は、各郡市部長から会員に直接送付であったことや、各郡市で教科主任間のメールでのネットワークが構築されていると考えられることから、学校代表アドレスを介さずに送付する方法でよいのではないか。**
- △資料をメール添付して送信するのは、製本の手間が省けてよかった。しかし、東部地区全ての学校に送るのは、なかなかうまくいかず苦労した。特に富山市は、学校メールアドレスがどこにも記載されていない学校が何校もあり、その度に学校に問い合わせるのはつらい。郡市部長を通して学校に転送してもらう形にはならないか。
- △タブレット端末等の導入によるICT活用を考えれば、今後もデータ配布にするとよい。
- △**指導案の事前研修も、メールやオンラインで進めることができるようにすればよい。**
- △今後もメールの配信でよいと思う。

IV

1 運営分担や日程

- オリエンテーションがなかったのがよかった。
- 的確な指示をいただき、安心して動けました。いつもとは異なる中で難しいこともあったと思います。ありがとうございました。
- △司会原稿のひな形があるとよい。
- △感染症対策の為、生徒がいた場所を消毒していたがそこも役員で担当を分けておくによりスムーズだったと感じた。
- 協議会がもう少し長くできるとよい。

2 研究授業

- 授業を生で見せていただく機会があることは幸せなことであり、勉強になることがたくさんあると改めて思った。
- 自分の担当グループの活動を観察する形だったが、生徒がマスクをしていたことやあまり近付けなかったことなどから、グループの話合いや創作の変容が観察しづらかった。
- コロナ対策に配慮しつつ運営を行ったが、教員が生徒に近付きすぎている。

3 研究協議

[両地区共通]

- 来年度からの評価について詳しく教えていただくことができ、よかった。
- 部会協議が一つにまとめられ、協議内容が充実し、効率よく時間を使えたように思う。
- それぞれの教員自身の専門的な音楽経験がどうしても先に立ってしまい、協議の内容が、生徒の演奏の出来・不出来や技術的な側面にばかり目が向きがちのように感じる。授業研究会である以上、教師と生徒、生徒同士のやり取りを通して、知覚と感受あるいは音楽と言語活動の往還がどのように行われ、生徒の学習がどのように深まり、題材や本時のねらいが達成されたかという視点からの協議となるように、参加者の意識を変えていく必要があるのではないかと。

[東部地区]

- 指導助言者の指導主事の先生から、現行の学習指導要領と新学習指導要領の違いについて明瞭簡潔にご説明いただけただけよかった。今後、しっかりと新学習指導要領を読み込み、理解して準備していかなければならないと思った。
- 他のクラスの授業で使用したワークシートを掲示することによって、ワークシートの工夫の仕方によって生徒の感想の書き方（内容や量）が変わることを示すことができたのではないかとと思う。
- 2/2時の授業を終えたクラスの鑑賞分を掲示することによって、本時がどのようにつながるのかを示すことができたのではないかとと思う。
- 協議会用メモが、自分の考えをまとめたり、それを基に発表したりしやすかった。
- 協議会用のメモが分かりやすく、協議会も視点がブレずに進めることができてよかった。
- 視点が明確で、協議会がスムーズに進んだ。
- コロナウイルス感染症対策について情報交換ができた。
- コロナ禍で部会がなかなか開けない中であって貴重な情報交換ができた。
- △オリエンテーションを省略したことで大人数が集う時間も減り、感染症対策の意味でよかったと思う。今後も、世の中の動きに合わせた動きをしていくことが望ましいと思った。
- 他校の会員と感染症対策についての意見交換ができたことがとてもよかった。
- コロナ禍の中、開放的な教室での実施、授業後の徹底した消毒作業等、十分に配慮され、役員の方々のご尽力に頭が下がりました。

[西部地区]

- グループ協議はよかった。(2)
- 事前に協議会のもちかたについて連絡してもらえて助かった。
- 授業中心に協議会が進められたので、授業者にとって有意義だったのではないかと。
- 部会協議・指導講話から、創作におけるポイントを知ることができた。
- 部会協議において、グループ討議をしたことで、活発な意見交換が行われていた。
- △各グループにタブレット端末等を配布し、それぞれの意見をスクリーンに映し出すと参加者全体で共有しやすくなる。
- グループ協議をしたのはよかった。広い会場での協議会だったので、全体での意見交換などは少しづらかったのかなと思った。(意見を言う人が少なかった)
- グループ協議のデメリットとして、各グループで話し合いをした内容を共有する時間が短かったと感じた。
- なかなか集まる時間がないので、普段の授業におけるコロナ対策について話し合う時間がほしかった。

V

- 会場の準備等は非常によくしていただけた。
- 参加できなかった先生も授業の様子を参観できるよう、動画配信サイト等を活用して限定公開という形で配信できないか。
- コロナ対策に配慮しながらの会場設営、授業準備、計画は、会場校、授業者にとって負担が大きい。
- コロナ対策に配慮するのはとても負担になるので、思い切って研究授業をなくしてもよかったのではないかと。
- △私自身、生徒に伝えようとする際、ポイントを伝えているつもりが、実際には一部の生徒には伝わっていない場合もあるので、実際に授業の様子を参観して、吸収したい思いが強かった。
- △「研究大会を終えて」の記入用紙について、紙媒体・メールのどちらでも都合のよい方法で提出を求め

ても、毎年出さない先生がいるので残念に思う。せっかく参観したので、提出する意義について、全体でもう一度確認していただく等するとよいのかと思っている。

△東部地区大会の授業の動画等があればぜひ参観したい。

<美術部会>

I

[東部地区]

- 小学校とのつながり、連続性や継続性のある「造形遊び」の要素を含んでいることで、どの生徒も興味をもって取り組むことができていた。
- 指導案は国教研が示す新指導要領準拠の指導案に沿って作成され、今後、私たちの指導案づくりの模範となった。
- 廃材となる流木に再生的価値を見出し、生徒が愛着をもって素材を吟味するところから始まっている。自分で歩いて、自分の目で見て、自分の手で触って素材を選ぶという過程は、感性を育てる上でも、有意義な取組であったと思う。スケールの大きい作品づくりにつながった。
- 海、川から拾ってきた一つとして同じ形がない流木を素材にした題材は、限られた授業時数や多忙化から避けたいと感じる指導者がもいるのではないか。しかし、素材のおもしろさやよさを味わいながら、材料の組合せや接着方法等を各自で選ぶことができ、生徒にとっては発想を広げるよい機会になっていた。また、生徒の記憶に残る制作体験になったのではないか。
- 生き物に触れたり関わったりする経験が少ない生徒や生き物への関心が低い生徒に対して、カテゴライズされた資料等が入念に準備されていることで、生徒は「自分にもつくれる」という思いをもち、発想が広がったのではないか。
- 本時の導入では、スクリーンに参考例を大きく提示し、「生命感」という言葉を使い、考える視点を与えているところがよかった。
- 導入では、制作の要点が造形的要素と表現意図との関連において効果的に説明されており、分かりやすかった。
- 前時までの生徒の困り感を共有することで、一人一人に考える視点を与え、自分の作業の見通しをもつことにもつながっていた。
- 授業全体の時間配分や切り替えの指示が適切で分かりやすく、1時間の授業の中で活動や振り返りが適切に行われていた。
- 生徒の発想を広げるような配慮された声かけや、ワークシートに細かく書かれたコメントがすばらしい。

[西部地区]

[研究授業]

- コロナ禍における鑑賞活動の手法として、体育館で十分な間隔をとってスクリーンやマイク、ワークボードを使った意見交換がされた。
- 鑑賞の作品資料の提示について、プロジェクターの投影ではどうしても色彩が薄くなりがちだが、先生が描かれた大きな模写があったので、両方の欠点を補い合い、問題なく鑑賞できた。
- 先生が実際に描いた模写があることで、先生の授業に対する熱意を生徒も感じていたのではないか。
- 波の「1秒後の様子を想像してみよう」という言葉かけは、なぜ、北斎はこのような構図を選んだのか考えさせるよい発問だった。
- 先生の模写や山の大きさを想像する活動等、導入で生徒の興味をひく工夫があり、かたいイメージのある鑑賞にも抵抗なく生徒が参加し積極的に意見を出していた。
- 生徒が課題に対して真摯に挑む姿勢がよかった。作品の表面的な特徴を捉えるだけでなく、荒波や富士山が何を象徴するのかまで考えを深めている生徒に関心させられた。また先生と生徒の落ち着いた雰囲気の様子よりは理想的だった。
- 意図的に富士山や人物を隠して見せたことは、鑑賞者の意識を波の部分に集中させ、よく見ようとする意識を高める上で効果的であった。
- 構図について気付いたり、考えを広げ深めたりすることができるよう、意図的に発問や課題を設定する、分析的鑑賞の授業デザインであった。
- 生徒が興味をもちやすく、教師が育てたい力の育成に適した鑑賞作品を選定していた。また、作品の特徴を生かした、クイズ形式の課題の与え方を工夫していた。
- 「鑑賞における見方や感じ方」「造形的な視点」を育てる観点で、身に付けさせたい力を明確にして鑑賞活動を行っていた。
- 生徒の意見発表とそのシェアを通して、生徒は自然と作品の見方や感じ方を広げたり深めたりすることができていた。
- 作品から感じたことを基に造形の要素を視点に表現の工夫を探り、作品の主題や作者の表現意図に迫る展開になっており、生徒の思考の流れに沿ってよかった。

[研究発表]

- コロナ禍における実践発表では、ホームページや便り等による情報発信が、美術科の活動の保護者理解を得る効果があることや、美術を通して生徒と温かい関係づくりに役立っていること、美術科に与えられた限られた時間をどう有効活用するかを考える機会となった。
- ICT機器を活用して情報を発信することにより、生徒の創作意欲を高める工夫がたくさん見られ、これからの考える上で大変参考になった。
- 先生方に色々な方向や方法を示し、元気を与えたり、これからの取組を勇気付けたりする発表であった。

○「見立てる、視点を変える、日常生活の中でのチョットした工夫等」の実践が発表され、新学習指導要領の「造形的な見方・考え方」「生活や社会の中で生活や美術文化と関わる資質・能力」を育てる取組である。

○社会へ開かれた取組であり、美術科が行っていることが見え、学校への信頼へ繋がる。

○生徒の心を和らげたり、興味関心を持たせたりする、人の心を動かす取組である。

○今回のコロナ禍は、多くの美術教師自身が、今までの自分の取組や3年間・9年間はどうあればよいかを見直すよい機会となったのではないかな。

○コロナ禍における美術科の存在意義に関する発表であったが、そこだけに留まらず、教育課程での美術科の本質を問う発表であったと感じた。限られた条件の中で、生徒に育成したい資質・能力をベースに美術科で何ができるのかという、今後生きるヒントをいただけたと思う。

[その他]

○座席を離しての配置、生徒がお互いに交流したり吹きを取り上げたりしやすいように考慮した半球状の形態等、コロナ禍においての授業、研究大会の対応の仕方を提案していた。

○研究主題2年目の「表現における発想や構想と、鑑賞における見方や感じ方など」に関する研究を進めることができた。

II

[東部地区]

△多様な工具有り、道具の使用方法が未熟であることや流木が思いのほか硬かったことで、安全面の指導が課題である。安全面を考え、もう少し工具を限定してもよかったのではないかな。

△工具が多い場合は、使用方法等の指導を美術科で全て行うのではなく、技術科との連携を図るなど（横断的学習）の工夫を行えば、安全に活動することは可能である。

△工具の扱い方の動画をスクリーンで流してもよいのではないかな。

△万力の使用の必要性や机上の汚れへの対処があればよかった。

●予備の流木、工具、掲示資料などの事前の準備、制作場所や保管場所の確保など、指導者一人では難しい面があると思った。

●教師一人が、一人の生徒の作品にかかりきりになることは避けたい。

△制作に入ると生徒が躍動感や生命感を考えていたのかが、よく分からなかったことで、終末でさらに意識させるとよい。

●思うような形を作れず、やる気がなくなる生徒もいると考えられるが、そのような生徒への手立てや評価について、どのようにするのか。

△終末で「自立させる」ためにどのような工夫をしたのかを振り返る場面があるとよいのではないかな。

△生き生きとした動きの瞬間を捉えることに重点を置き、動物の全身像でなく体の一部分を作品にすることも可とすれば、生徒の力量に応じて作品を仕上げられるのではないかなと感じた。

●体育館という広いスペースでの授業であったため、道具や工具の置き場の確保や切断等の活動場所にも余裕があったが、美術室で行う場合はどのような工夫が必要かを考えさせられた。

[西部地区]

△生徒の発言に対して、「なぜそう感じる（考える）のか？」と問い、生徒の考えの根拠や理由を明らかにしていくことで、生徒の見方や感じ方を深めることにつながるとよい。

△コロナ禍の中で行う鑑賞方法や生徒同士の交流の仕方、教師の言葉かけ等を研究したい。

△道徳や国語科、社会科とは違う、美術科独自の鑑賞の在り方の研究を進める。

△3か年を見通した計画や表現活動との関連の中で、鑑賞の計画を練る必要がある。

△鑑賞でのねらいを明確化し、それにあった作品の選定、鑑賞の進め方を工夫する。

△鑑賞の授業の中での、教師の役割について整理する。

△鑑賞活動の学習では、鑑賞者の意識に沿って気付きの楽しさを考慮しながら組み立てていく必要がある。鑑賞活動における教師の役割がとても大切であることから、生徒の実態を把握し、どんな方法で鑑賞を進めるか、事前に十分な準備が必要であることが分かった。

●3年間を見通して、「表現の発想や構想」や「鑑賞の見方や感じ方」を育てる授業デザインをする必要がある。

●新学習指導要領における評価の3観点に基づく、教育過程の見直しと新しい評価基準の作成について研究する必要がある。

●鑑賞の授業のテーマ設定はそのねらいによって、いろいろな内容が考えられる。「ねらい」に記述してある「構図」という点に注目させるところは、もう少し必要だったかと思う。「構図とは何なのか」については2年生にはまだ難しいかもしれない。

●感染予防のため生徒との距離を取ったことで、表情を読み取りづらく、発言も聞き取りづらいことがあった。今回は後ろから見たが、進入禁止区域をテープ等で示した上で、席からではなく斜め前方や周りから見るような工夫があればと思う。

●自由に机間を見回れないので、生徒個人の変容が捉えにくいと感じた。

●日頃、授業時間を守ることを大切にしたい。計画通りに展開が進まない時に、何を加えたり、何を省略したりするかの優先順位をあらかじめ考えておきたい。

[その他]

・通常と異なる状況の中でこれを実施されたこと、大変だったろうと思います。網谷先生はじめ、関わられた先生方お疲れ様でした。

III

[東部地区]

△コロナ禍の有無に関わらず、今後も指導案はメールで送信する方法が望ましい。

△郡市の教科部会で事前研修する予定にしていたが間に合わなかった。**可能であればもう少し指導案の送付を早めてほしい。**

●指導案をメールで送ることは会合を減らすという点で効果的であったが、**配送の締め切りが不明確になる点が難点だった。**

[西部地区]

○**コロナ禍ということもあり大会資料はPDFファイルをメールで配布されたが、無駄を省くという点で今後も続けていけばよいと思う。カラー資料など見やすかった。**

△**配布については、学校アドレスへの配布か個人配布か教科主任配布かなど、他教科との統一事項があってもよい。**

IV

[東部地区]

○**コロナ禍での研究大会の実施に不安があったが、体育館で授業が行われたので、感染リスクを避ける効果が大きく、安心感があった。**

●**今後のコロナ禍での研究大会運営（感染対策、会場の確保：体育館での授業は準備が大変である、など）をどのようにしていくのか。**

△**研究協議の際、発表内容に関する協議だけではなく、研究主題に絡めた協議ができるとよかった。**

△**研究発表で考査の内容について協議する予定にしていたが、今年は実施できなかった。来年は評価の観点も変更されるので、今年できなかった考査についての研修を実施したり、評価の実際について研修を深めたりできると勉強になる。**

○**研究協議のグループ討議では、付箋を使用して話し合う形式が定着してきており、深い話し合いができた。**

○**全体発表での発表は、互いの意見を尊重し、話が重ならないよう配慮されており、少ない時間だったがゆったりと発表されていた**

●**入口受付時に体温計測する担当者が必要であった。**

[西部地区]

△**研究発表については、個人的な研究だけでなく、任された地区で検討し、色々なやり方を工夫することもよいのではないか。（例：新学習指導要領の評価の3観点の研究、地区で協力して研究している題材、地区の写生会や地区で行った実技講座の紹介、各地区へ自画像の作品を持ち寄ることを呼びかけ、それに関しての話し合い、美術館との連携について等）**

△**学方向上のためのアドバイザー講義をリモートで見るとはできないか。また、レジュメを配布される場合は、郡市部長会で資料交換等ができるとありがたい。**

○**感染対策がなされており、今後の研修会のモデルとなった。**

○**今の状況下では、十分貴重な研修の機会になりました。**

V

[東部地区]

●**黒部市は4校から2校という統合があり、隔年で部長会に参加しなければならない事態が発生している。3年に1回程度程度になるとよいと思う。部長会への参加を新川地区で1、2名（現在3名）になるようにしてほしい。その分、今より1名から2名程度多く富山市の部員から部長会に参加していただくと、部長会の運営がスムーズに行えるのではないか。部長会に参加しているメンバーのみで役割分担される仕事も多いことや出張先が遠いことも、新川地区にとって負担である。**

○**次年度も中新川、滑川合同で協議会を行っていきたい。**

△**美術教員は各学校に1、2名であることが多い。若い教員等は授業の悩みを抱えていても、日頃から先輩教員に相談できる機会が少ないため、そうした悩みを共有できるような場が今後少しでも増えれば有難い。**

△**過去の資料を電子データ化して、アーカイブとして常に閲覧できるようにしてほしい。**

[西部地区]

△**部会における研究授業の位置付けについて考える時期に来ていると思う。皆さんが共通で取り組んでいる課題（自然物の構成や立体感のある平面構成など）を取り扱い、指導方法や評価方法を深めていく方法もあると感じた。**

△**世の中は今回のコロナ禍を期に改革される方向である。中教研の研修の在り方（研究授業自体）も改革すべきではないか。**

●**協議会では授業に関する様々な意見が交わされたが、ある一定のテーマを中心に据えて協議を進めていくことも必要ではないか。特に、本会が研究主題を設定している以上、このような多くの美術教員が集まる大会で主題解明のために協議することは意義のあることだと思う。**

●**ここ数年で、美術科教員の世代交代が急激に進むと思われる。協議会でより若い世代の意見を取り入れられるような工夫をしていくことが大切である。**

<保健体育部会>

I

[新川地区]

○**ソフトボールの授業において、事前に練習メニューを複数用意し、課題解決学習につながるような手立てがされていた。**

○**生徒は練習メニューを自ら選択することができ、スムーズにねらいをもて練習に取り組むことができていた。**

[富山地区]

○**コロナ禍でいろいろな制限がある中、授業検討会をより効率的・効果的に実施できるように、事前に幹事にメールで指導案を送り、改善部分や検討部分を授業者に連絡し、修正してもらった上で授業検討会を実施した。**

○**授業者と指導助言者の打ち合わせも事前に指導案をメールや電話で実施した。**

[高岡地区]

○事前に担当する観察グループを決め、授業を参観した。部会協議会では、観察したグループの様子を基に具体的に協議することができた。

○**タブレットで幅跳びのフォームを撮影する背後に、見本となるモデルを設置したため、自分の姿を重ねて撮影でき、自分のフォームを見る上で大変有効であった。(デジタルとアナログの融合)**

[砺波地区]

○3年間を見据えた指導計画を立て、段階的に学習を進められ、生徒の活動の様子からもその有効性がうかがえた。

○視聴覚機器が多く設置され、有効に活用されていた。

○**映像を見る際の視点を明確にしてあったので、生徒はその視点で見て話し合い、互いの高まりに効果的だった。**

II

[新川地区]

●始まる時間が遅かったために、オリエンテーションや開会のあいさつが省略された。

[富山地区]

●今年は夏休みが短縮され、指導案の作成が課業中で授業者の負担が大きかったと思われる。

●運営側と指導助言者の打ち合わせがしっかり出来ていなかったので、指導助言の時間配分の調整に苦慮してしまい、部会協議2の時間が短くなったので、綿密に調整しておく必要がある。

[高岡地区]

●「ふり返りシート」の工夫が必要。学んだことや考えたことを書いてまとめることにより、整理され知識・技能の向上に繋がる。

[砺波地区]

●来年度以降、3観点での評価になるので、各校においてすぐに準備を始める必要がある。

III

1 会場郡市、会場校の決定・・・なし

2 地区研究会・・・なし

3 資料の編集及び事前研修会・・・なし

4 資料の製本や配布 等

△ 資料の製本や配付は、出張回数の削減のため、今回のようにPDFでの送信がよい。

IV

1 運営分担や日程・・・なし

2 研究授業・・・なし

3 研究発表・・・なし

4 研究協議・・・なし

5 授業力向上のためのアドバイザー講義・・・なし

V

○このような情勢で開催規模が縮小されたが、会場校の協力により無事終わることができた。

△本年度は紙上発表がなかったが、来年度以降もなくてもいいのではないかと。

<技術・家庭(技術)部会>

I

[東部地区]

○**コロナ禍において、事前収録の授業を動画で見る研究授業であったが、7台のビデオカメラで撮影した教師の指示や各班の活動をそれぞれプロジェクタで投影し、分かりやすく興味深かった。また、授業後の生徒インタビュー映像は生徒の感想を直接聞くことができ、新鮮であった。コロナ禍での研究授業の在り方として、いい提案となった。**

○研究授業は、「生物育成に関する技術」について、生徒が3種類の作物を同時に栽培し、その管理作業等を比較するという今までにない発想で、大いに参考になった。

○課題解決に当たって、知識構成型ジグソー法を用いていたことは、生徒が自ら最適解や最善の方法を見だし、新たな気付きにつなげることのできる指導方法であり、今後、他の単元でも使えることが分かった。

○部会協議では、例年のような研究発表はなかったが、来年度から始まる3観点による評価の仕方等、現状の不安や悩みを共有する場となり、有意義であった。

[西部地区]

○研究授業は、「情報に関する技術」の計測・制御について、生徒にとって必要感のある題材で、既習事項をヒントに解決する課題や既習事項を深める応用的な課題が用意され、生徒の習熟度に応じた、主体的・対話的で深い学びにつながる問題解決的な学習であった。

○課題設定において、「安全性、経済性、環境性、利便性」の4観点からなる「技術ものさし」を取り入れ、生徒の「技術の見方・考え方」を働かせる手立てとなっていた。

○**ICT機器を利用したデジタルワークシートや教材提示が多数あり、デジタルコンテンツの活用について提案する授業であった。**

○部会協議では、文科省教科調査官の講義や学習指導要領の解説を視聴し、指導主事の指導助言も実践的内容で詳しく、実のある研修になった。

II

[東部地区]

●授業動画は、生徒の発言等、音が拾いづらく、改善の余地がある。

△コロナ禍のもと、研究大会を完全にリモートで行い、各学校のPCでの研究協議という在り方も検討して

もよいのでは。

[西部地区]

●今回の授業は2学年で行われたが、3学年で行う内容では？ 3学年間のつながりを意識した指導計画の見直しが必要である。

△小学校でビジュアルプログラミング学習が行われ、高校ではテキストコーディングを行うのであれば、間の中学校ではどのような学習に取り組ませるべきか検討の必要がある。

△GIGAスクール構想による一人1台タブレット政策が実施されたときの授業の在り方、機器の整備について検討する必要がある。

△ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラムによって課題解決する活動の具体が見えてこない。

△どの学校でも行える教材・教具の充実もしくは見直し・開発が必要である。

III

[両地区]

●会場都市・会場校の決定において、技術部会では各都市の部員数が減少し、地区による人数の偏りが目立ってきた。何度も研究授業を担当する者もあり、今後は東西交互に全県での研究大会にするなど、見直しや改善が必要である。

○コロナ禍のもと、地区研究会、資料の編集、製本、配布等が中止されたり、簡略化されたりした。コロナ禍に関係なく、次年度以降も同様にメール等を利用し、簡略化するとよい。

IV

特になし

V

[東部地区]

△コロナによる現状がいつまで続くか分からない。中教研事務局で、指導案のクラウドサービスやデータベースの構築など、簡略化できることを行うべきでは。

[西部地区]

△高岡市・射水市・氷見市で共同研究を行っているが、今年はコロナ禍のため実施できなかった。市によってはオンライン研修システムが整備されており、今後は郡市をまたいでオンライン化を可能にしていく必要がある。中教研の各種会合もオンライン化していけないものか。

<技術・家庭（家庭）部会>

I

[東部地区]

○密を回避し、体育館で授業を行ったこと。

○思考ツールの適切な活用は、生徒の思考を明確にする効果がある。

○モニターにタイマーを映し出して学習活動の時間を管理するなど、ユニバーサルデザイン的な視点での工夫が見られた。

○しっかりとした動機付けがなされた授業で、生徒の発表やワークシートの記述に、意識の高まりが見られる内容がたくさん含まれていた。充実した言語活動だったと思う。

○関心・意欲・態度の評価方法の協議では、授業前と授業後の心の変容を比べることが有効だと分かった。

○フィッシュボーンの6つの視点は、生徒が調べたことを整理してまとめることができるので調べ学習では効果的だったと思う。本時のねらいに迫るためにうまく活用するとよりよいツールになると思う。

○学習課題をみんなで声に出して読み上げることは、本時で何を学習するのかわかりやすく、実際に取り入れていこうと思う。

○次の流れを画面で示すことも、生徒に可視化されて理解しやすかった。

○和食について富山市で取り組んでこられた成果がみられた。

●グループで発表する時間では、友達の意見について質問しながらよく聞いている生徒が多かった。しかし、料理がすべて異なっていたため、ワークシートに書くことに集中してしまうところもあった。

[西部地区]

○砺波地区が継続して研究しているモデル像を通しての課題設定は、プライバシーに配慮しつつ共通の土台として考えることができ、最終的には自分の問題として理解を深めることのできる学習活動であった。

○教材として使用した「自転車の広告」の完成度が高く、実生活に近い感覚で商品選択を考えることができる問題解決的な学習であった。また、余計な情報を削除し、生徒に考えさせたい内容だけを盛り込んで、生徒の思考が広がるように工夫された教材であった。

○商品選択の意思決定の際に、ネームプレートを使って「買い物は投票」を意識させる場面が体験的でよかった。

○販売方法や支払い方法、消費者の権利など、既習事項と関連付けて多面的に商品選択を考えるよう生徒の思考を深めたり、広げたりする教師の発問がとてもよかった。

○自転車のチラシは本物に近く学習意欲を高め、主体的な活動を促すために教材の工夫されており、効果があった。

○自分の考えをネームプレートで示したことで、傾向がわかりやすかった。また、指名がしやすくなっていた。

○自作のチラシの教材が工夫しており、主体的な学習につながっていった。価格だけでなく商品を比較検討するための視点を与えるしかけがあった。

○新型コロナの感染予防対策のため班ごとの話合いができなかったが、ワークシートやネームプレートの工夫により全体で活発な話合いが行われた。

○部会協議2で紹介された消費者トラブルの自作の映像教材がすばらしかった。可視化・音声化されていてユニバーサルデザインを取り入れた授業だった。

- 会場校は日頃から新型コロナの感染予防対策がしっかりされており、授業当日事前に授業会場・協議会会場の消毒がされていた。
- 授業の成果と課題を各自が付箋に書き、部会協議1で活用したことで活発な協力を行うことができた。
- 研究授業では、本物そっくりのチラシを利用して、どの店や商品を選ぶかを考える場面があったり、生徒が選択した結果に応じて、教師が指導案と発問を代えたりするなど、工夫が見られました。
- 新型コロナウイルス感染症対策として、授業会場はランチルームを使用し、参加者は仕切り越しに、生徒と距離をとって参観しました。また、協議会の後は、自分たちが使った机や椅子の消毒を行った。今年度は、休校のため、いつもと進度が違っていたり、様々な感染症対策を行う必要があったりするなど大変なことが多かったと思いますが、いい授業を見せていただき、ありがとうございました。

II

<東部地区>

- 体育館での授業公開であったが、生徒の発表の音が通りにくく、話合いが短かった。また、参観者がどこまで生徒に近付いてよいか、躊躇した。
- △生徒の意見を基に思考ツールの視点を設定すると、より問題解決への意欲が高まるのではないか。
- 全員バラバラの料理を調べたので、話合いが深まらなかったのではないか。
- △生徒の発言をうまく切り返して、考えを深めさせる教師の補助発問の仕方を工夫するとよい。
- △教師の言葉で無理にまとめず、生徒の言葉でまとめていくとよい。
- △協議会では、グループ討議を取り入れると意見交換が活発になる（感染症拡大防止の観点から、今回は見合わせました）。
- △生徒の発言から出た料理を映像で見せるなど、視覚に訴える工夫をしたらよい。
- たくさんの情報があり、それをどう活用し、生かしていくかは工夫できると思う。
- △生徒の発言に付け加えたり、同じようなよさをもつ他の料理を調べた生徒に意図的に指名したりして、情報を交流させたら、さらに考えを深められると思った。先生の問い返しや補足があったらよりよかったと思う。
- せっかくICT機器を使っておられたので、**生徒の記述を映し出すこともできたのではないか**と思う。
- 先生側の問い方によって、生徒の記述の仕方は変わるので、やはりねらいに対して先生側の規準がとても重要だ**と思う。
- 今、なぜ和食が取り上げられないといけないのかその背景にも迫って欲しかった。
- 米の摂取量の減少、野菜農家の減少漁獲の変化など、今、日本が憂うべき事柄が多くこのままでは和食もいずれ衰退することが懸念されるが、そのような危機感をもてばもっと熱心に調べたかもしれない。

[西部地区]

- △支払い方法の視点も盛り込んだがなかなか意見が出てこなかったもので、今回は自転車を題材に取り上げたが、多面的に考えられるようないろんな商品で試してみてもよいのではないか。
- △ワークシートにある程度商品の情報を記載しておけば、時間的にも余裕が出て、生徒の意見も膨らんだのではないか。
- △コロナ対策で机間巡視もできず、生徒のワークシートの記入内容をタイムリーに見ることが難しい状況であったため、どうしても発言する生徒の考えが中心になっていた。この形式であればICTを使って考えを示すことができれば、意図的指名もできた。
- △いい点、悪い点を板書するのではなく、表（項目：値段、品質、保障、デザイン、環境対策など）にして、◎、○、△、×くらいで表し、一目で分かるようにしたらよかったと思う。
- △遊びや趣味などにかかるお金を提示することで、自転車にお金をそんなにかけられなく、安い自転車を選ぶ生徒も増えたのではないか。

III

[東部地区・西部地区]

- 会合ができない状況の中、メールでのやりとりを中心に進めるなど、事前の協議方法としては、最善が尽くされていた。
- 今年度は指導案の配布を郡市部長が会員にメールで添付したが、印刷・製本の手間や出張が省けてよかった。来年度もこの形でよい。**
- 今後も、様々な情報交換をメールで行えば、負担が少なくなりよいと思う。
- 受付・授業会場・協議会場の動線が短くてよかった。
- 感染症拡大防止の対策が多く見られた。
- 各学校へ資料のデータを送る作業は、各郡市の部長が地区ごとに行ってもらい大変助かった。
- 資料のデータ配信で問題は特にありませんでした。また、家庭科専任の教員がいなくても全ての学校にデータを送り、受け取った旨の連絡をいただくことで、教頭先生方や他教科の先生にも家庭科での取組が目に見える機会になったのではと考えます。**
- △会合ができない中、メールのやりとりだけでの意見交換は難しいと感じた。早く対面しての話合いが可能になればと強く感じた。
- △コロナ禍での来年度以降の公開授業の内容を、今年度中に探る必要がある。
- △参加者が資料に目を通して質問事項をまとめておくなど、事前に準備しておけば、もっと協議が活発になるのではないか。

IV

[東部地区]

- コロナ対策で体育館での授業と協議会でしたが、いろいろ配慮していただきありがとうございました。

△指導案に使用するプリントものせて欲しかった。
△指導主事からの提示しておられたものを印刷・配布して欲しかった。

[西部地区]

- 授業が素晴らしかったので、部会協議①の時間が40分しかないのもったいないように感じた。部会協議②がなくてもよいので、協議する時間を増やして、活発な意見交換があればよかった。
- 授業の「成果と課題」を付箋に記入する形になっていたのも、全員の先生方から貴重な意見をいただくことができた。
- 指導主事の萩中先生から、新学習指導要領の評価について教えていただいたことが参考になった。特に評価が難しいといわれる「主体的に学習に取り組む態度」では、①粘り強さ、②自らの学習調整力に加え、家庭科では③実践しようとする態度の3つの側面から評価することを教えていただいた。また、評価規準の書き方や文末について詳しく説明していただいたことが参考になった。
- 指導講話で新学習指導要領の評価について、今回の題材を例に詳しく説明していただき、大変参考になった。
- いつも意見の出にくい協議会1では、付箋を利用し、参観した先生方それぞれの考える、授業に関するよい点や改善した方がよい点をしっかり聞くことができました。また、協議会2では、授業に利用できる手作りの動画を見たり、指導主事の先生に新しい評価について学ぶことができたりするなど、非常に勉強になりました。
- 資料製本のための部会は必要ないと感じた。しかし、資料を印刷する作業・送付する作業は部会責任者と会場校のどちらが行うのか、何度か変更があり連絡調整が必要だった。

V

- 学校で1人の教科のため、今後もこのような場で研修を深めたい。消費生活に関する資料やデータを市・地区を越えて共有させてもらったので、すぐ授業に生かしたいと思う。
- 研究の仕方や研究大会の在り方については、年々家庭科の教員が少なくなっていく中で、また、来年度の東海北陸地区富山大会に向けて、このままのやり方でいいのかと思います。オンラインの活用や、郡市を超えた研究・発表の機会をつくるなど、郡市を超えて協力し合えるような体制を考えていくことが必要なのではと考えます。
- △教科によってコロナ対策が違うため、授業の中でできることが違い、制限が強いところは活動が大変である。西部地区大会でも教科によっては、グループ活動をしているところもあり、県、又は地区で共通のコロナ対策に合わせることで授業の幅も広げられるのではないかな。

<英語部会>

I

[新川地区]

- 部会協議の時間が例年よりも長く設けられており、充実した協議になった。
- 英語を学ぶ必要性や意義を考えることのできる授業であった。
- 生徒が考えたくなるトピックであったこと、また「話すこと」への支援や適切な声かけがあり、ミスを恐れず積極的に英語で表現しようとする生徒が多数いた。

[富山地区]

- 全ての学年に渡って、5つの授業を実施した。グループ活動での学び合い、表現ノートの活用等は効果的であった。
- 部会協議では、研究授業において成果が確認された点、改善すべき点を2色の付箋に記入し、指導案の「展開」部分拡大した紙に張り付けながら少人数のグループで協議した。
- 部会協議の長くとることで、各グループからの様々な意見を共有することができた。

[高岡地区]

- 動画での授業参観であったが、編集により事前・事後の学習の様子も含まれ、また授業者による解説を交えながらの視聴であり、分かりやすかった。
- 課題設定が、自発的に学ぶ意欲を高め、表現力の向上につながっていた。
- 日本文化発表の原稿を見直し、改善するという展開において工夫が多くみられた。

[砺波地区]

- A L Tの家族に送るビデオレターを作成するという、目的・場面・状況の設定が適切で、生徒は目的意識をもって活動に取り組んでいた。
- 友だちのスピーチ原稿を回覧して質問を付加し、その質問に答える形で英文を書き加えていくことで「読むこと」「書くこと」がリンクされた活動になっていた。
- 帯学習であるスマールトークによる即興性の育成、ペアによる活動が十分に生かされた授業であった。

II

[新川地区]

- ペアで話す活動をしている際の、文法・語彙のミスを修正するタイミングや方策について検討が必要である。

[富山地区]

- 英語で書く、話す必然性をもたせ、また基本的に英語で授業を行うという授業を展開する必要性がある。

[高岡地区]

- 動画では、生徒の発言が聞き取りづらかったり、授業の雰囲気伝わらなかつたりする点が課題である。

[砺波地区]

- 部会協議においては、話合いの視点を設定した方がよい。よい点の話ばかりが多く、討議になりにくかった。

III

[4 地区共通]

△指導案を各校にメール配信し、各々が印刷する方式は大変よい。次年度以降も継続すべき。

IV

[新川地区]

○コロナ禍の中、簡素化が図られたが、今回の内容で十分であった。

○指導助言の中で、次年度以降の評価の話をいただき、有意義であった。

○少人数による実施のため、例年よりも研究授業の参観や協議に深まりがあった。

[富山地区]

△今回は部会協議の時間を長くとれたが、次年度以降の時間配分については検討する必要がある。

[高岡地区]

○指導主事から、新学習指導要領実施に伴う評価について学ぶことができた。各校にしっかりと伝えることが必要である。

△次年度以降も、感染予防の必要がある場合は、全教科統一した形式の大会にすることが望ましい。

[砺波地区]

○模造紙を用いた部会協議は、授業の展開を整理しながら振り返ることができてよかった。

●感染防止のために配慮することに多くの時間を割かれ、授業者、会場校、参加会員の負担が多きように感じられた。

△若手教員も参加できるように、参加者を1校1人に限定しない方がよい。

V

○各校1名程度に参加者を絞ることで、出張者が少なくなり、学校運営上も利点がある。

△部会全体で統一された授業形態にすべきではないか。

△県中教研として、統一された大会実施形式があればよい。

<道徳部会>

I

[東部地区]

○研究授業後の協議会を少人数のグループで行った。継続して取り入れている2色の付箋を使った協議会は、よかった点や工夫が必要な点を出しやすく、同じテーマで多面的・多角的に考えることができる話し合いになった。

○温かい雰囲気の中で授業が行われ、どの学年もICTを活用した構造的な板書になっていた。

○コロナウィルス感染症予防対策としてガラス張りの廊下やオープンスペースでのTVモニターでの参観だったが、学級の様子をしっかりと見ることができた。

○「ココログノート」を効果的に使用することで、生徒は、自分の考えをまとめて話すことができていた。

[西部地区]

○授業では小集団での話し合いが考えを深めており、友達の意見を聞いて、表面的な意見だった生徒が、行動の背景に隠された思いに気付いていた。事前アンケートを基にした導入もよかった。

○部会協議をグループ討議形式で実施した。事前にグループ分けと役割分担をし、協議の視点を絞ってからビデオ視聴と部会協議を行ったことで各グループで活発な意見交換が見られた。

○コロナウィルス感染症予防対策のため、事前に録画した授業のビデオ視聴であったが、資料として授業記録や、生徒のワークシート、板書写真が掲載されており事前に授業のようすや生徒の反応が確認できてよかった。

II

[東部地区]

●発問の仕方、板書、生徒の言葉のつなぎ方、問い返しの工夫。

△少人数、ペアによる話し合いの目的の明確化。

●生徒の表情まで見えるような撮影の工夫。

●生徒の感想を評価にどう生かすかまでの部会協議の深まり不足。

[西部地区]

●生徒の思考を深める学習形態と板書の工夫。

●生徒の考えを広げ・深めるための切り返しや問い返しの工夫。

△ルーブリック評価を取り入れた提案への意見が多々あり、事前検討の工夫が必要。

III

2 地区研究会

△使用する教材が他地区の教科書に載っていない場合、教材の取り扱い方について共通理解する。

○資料をPDF形式で各校に送信し各校で印刷・製本する方法を次年度も続けていった方がよい。

△大会当日の運営細案や反省事項等が申し送り事項として授業会場校間で引き継がれるようにする。また、担当校や担当郡市の負担が大きくなるように、他郡市の先生方に協力を依頼する。

IV

1 運営分担や日程

●部会協議①と②の時間配分のバランスが難しい。

△ビデオ視聴なら会場校ではなく集まりやすい別の場所でもよいのではないか。

2 研究授業

○ICT機器等の準備や撮影のため、会場校の負担が多かった。しかし、現在の状況では最善の努力をされ授業等を参観でき、研修ができてよかった。

4 研究協議

○小グループの協議、最後に全体でシェアしたことで、短い時間の中で参加者が主体的に協議に参加できた。

V

△若手教員の増加や資料を読まずに参加している教員もいるため、事前に資料等を読んでおくことを再度、伝えたほうがよい。

●研究内容を積み重ね、継続していくことが必要。

●このような時期での研修の必要性について疑問。

<特別活動部会>

I

[東部地区]

○生徒が主体となって学級会が進み、話し合いに積極的に取り組んでいた。

○**学級討議の形がととてもよく、1つの切実感のあるテーマを、継続して話し合っていることが大切だと感じた。自分のクラス、学年でもこういう形の学級討議ができるよう工夫していきたい。**

○担任と生徒との連携、並びに生徒の役割分担が明確でスムーズに進行を行っていた。

○アンケート結果を分析することで生徒の実態に基づいた題材の設定であった。

○**「みんなが実現できる課題設定」を行う上で、本音で言い合える雰囲気よかった。**

○広いスペースで行えたのは、コロナ対策の一貫としてよかった。

△コロナの一貫で省略された諸準備等は、来年度以降も必要性を吟味して業務軽減につなげていければよいと思う。

○学校全体の実践としてメディアの使い方に対する意識づけが普段から行われている。そのことによって、生徒たちは与えられた課題を自分の事として捉え、積極的に話し合い活動に参加してどの班でも活発で有意義な議論が交わされていた。

○ただ課題を設定するだけでなく、PDCAサイクルを意識した過程を経ることで、より生徒たちの意識も高まり、それがより良い学級・学校づくりへとつながっていた。

○うなずきや拍手など、仲間の意見を共感しながら聞く態度がよくできていた。意見を発現しやすい雰囲気があった。

○**班の中で「Yes」「No」の人数を明記していたのが分かりやすい。**

○各班の意見がマジックで書かれて黒板に貼られていて、話し合いの流れが分かりやすかった。

○日常の学習規律もきちんとしており、教員と生徒の良好な関係が垣間見えた。安心して自分の意見を言える環境が整っていた。

[西部地区]

○**教師の全体への発言をあえて行わず、話し合いを進めている。事前指導がしっかり行われており、生徒が主体となって話し合いを進めていた。**

○対立意見をはっきりさせて話し合いを進めている。明確になったことで話し合いがスムーズに、活発に行われた。

○班→全体→班→・・・と班の意見から折衷案を考え、また改善点を考えるこの繰り返しのサイクルによって生徒が更に深く、話し合いを進めていた。

○一人3票制によって、一つの意見に決定するのではなく、他の意見も取り入れられるようになり方向性が見えた。(2票制ではだめだったのかという疑問もあった)

○学活の時間以外に、朝や帰りの会の時間の活用などでアンケート等をしており、限られた時間を有効に活用していた。

○学習指導要領にそって考えられていた。

○**マンダラートを用いて、個人の考えがもてる状態で話し合いがスタートできていた。**

II

[東部地区]

△50分の時間の中で効率よく合意形成や意思決定を図っていくかは今後も工夫が必要だと感じた。教師が働きかけをしていく方法やタイミング、話し合いの在り方等についても同様。

●話し合いによって時間内に決定する必要性があったことで、合意形成に至っていたかどうか曖昧なまま「採決」の形を取らざるを得なくなってしまっていた。

△**合意形成のやり方として、多数決は適切だったか。少数意見をどう取り上げるか。**

●2つの項目を扱おうとしていたため、少し駆け足のように感じた。類似意見等をまとめて最終意見を確認してから多数決に移ってもよかった。(2年)

△課題には「みんなが実現できる形」とかいてあるが、最後は多数決が行われていた。全員が目標としているところを共通理解する必要があるように感じる。

●十分な議論を尽くしきれず、本時に狙っていたレベルでの合意形成には至らなかった。この原因として、本時に狙っていた項目が多かったことが挙げられる。

[西部地区]

●意見が多様化、複数の事案が同時進行で進んだため、合意形成としてまとまりにくい。論点を1つずつしぼった方がよかった。

●**新たな対立が生まれた際、時間はかかるがもう一度話し合ったらよかった。(教師のフォローが必要)無理矢理決めると、明日からの生徒の動きが不明確になる。**

- 一番何が大事か。折衷案だからといって、どっちつかずになるのではなく全体の目指すべき姿がどこかで確認することができたらよかった。何が目的なのか、課題も含めて要検討すれば、意見まとまったかもしれない。
- 具体的な行動目標を決めることをねらいにしていたのに、スタートの時点で全く具体的でない案があがり、そのまま話し合いがすすんでいた。(2年)
- 生徒たちは。個々に考えていたのにそれをうまく全体に広げられていなかった。全体的に言葉をなぞるだけのうわべだけの話し合いになった。(2年)
- 合意形成するためにはどのような話し合いが必要なのか、その話し合いにはどのような力が必要なかが授業者に明確につかめている必要がある。

III

△資料の製本・配布については発送費用や運営委員の負担も減るので、新型コロナ対応に関係なく、今後も今回同様に各校・各自プリントアウトでよいと思う。

△本年度は滑川中学校さんのおかげで密を避けた状態で授業研究をすることができて、大変助かった。しかしながら、来年度以降もこのような恵まれた環境で行うことができるとは限らず、人数の制限や授業研究の数や会場数について検討する必要があると考えられる。

●データの配布は、部会責任者から事務局にデータ送信。事務局から全校に一斉送信した方が効率的と考える。(部会責任者の負担が大きすぎる)

IV

△新型コロナウイルス感染への対応が各教科で行われていたが、統一基準を設ければ更によかった。

△紙上発表等は、原則行わなくてもよい。協議会の時間を十分にとれば、必要性はない。

△付箋紙を活用して共有する際に、太マジック持参で書いてもらおうと、すぐに情報が入ってきた。

〔東部地区〕

△発表を行う滑川市の先生方に多くの分担をしていただいたおかげで、スムーズに大会を始めることができたと思う。他郡市からの教員では分からないこともあるので、道徳・特活部会での駐車場係等は授業担当郡市の先生方の協力があるとありがたい。

〔西部地区〕

○部会協議会を昨年度の一斉(全体)協議から、グループ協議(10名程度のグループ)を行った。①導入②展開③振り返りの3つの場面に分け、付箋を用いて協議を行った。その後シェアタイムを設け、各グループでの話し合った内容を確認した。多くの先生方が、意欲的に研修主題解明に向けて協議を行っていた。

●新型コロナウイルス感染症の影響がいつまで続くかわからないので、話し合い活動の制限がある中で研究大会開催が難しくなってくる。今回の研究授業では、会場に教員が入ることが困難なくらい、既に生徒で密集していた。

△生徒の使用しているワークシートなどを事前配布されると、授業の流れがつかみやすかった。

△協議会は10名ほどのグループ討議であったが、もっと人数を少なく(4名ほど)にすることで、より活発な協議になると感じた。

●マスク着用で話されるので、協議会はマイク無しでは聞き取りにくい点があった。

△2学年観ることは厳しいので、協議会で他学年がまとめたことを共有できる時間がほしい。

V

△今回のような学校全体のルールを作るという題材であれば、学年間でそれほど授業内容や展開が大きく変わることはないように感じた。無理に全体会を設ける必要はないように思う。指導助言をされる指導主事の先生が全体会での発言を避けられたこともそれを表している。今後のwithコロナの研究大会の一つの方法として、部会ごとに協議をしたら解散という形態がよいと思う。

○授業発表地区にもかかわらず、特別活動部員が実質4名での活動であった。運営面での他地区の先生方の協力があり、本当に助かった。

△新型コロナウイルス感染拡大の影響で参加できなかった部員へ情報をどのように伝えるか。

△授業の動画の期間を限定し、パスワード設定で中教研ホームページに掲載する、部会協議の記録を掲載するなどの手立てをとることはできないか。

△部会ホームページに指導案の掲載をすることはできないか。

○リモートではなく生の授業を見せてもらえたのは大変よかった。是非今後もその方向で進めて欲しい。

△今年はコロナ禍で活発な活動が難しく、他校の取組が気になった。各学校(各市、郡)での特活の取組を共有できるもの(冊子、データ)があればよいと思った。

<特別支援教育部会>

I

授業内容について

〔東部地区〕

○支援ツール・補助具が充実しており、生徒の自主的な行動につながった。(展示により指導経過がよく理解できた)

○チームを組んで作業学習を行うことで、チーム内の他の生徒への思いやりが醸成されていた。

〔西部地区〕

○教師・生徒共にiPadなどICT機器利用に慣れていて、主体的かつ個に応じた指導が展開されていた。

○自立活動や生活単元での授業が多い中、教科(理科)の授業が見られて大変参考になった。

授業の公開方法について

〔東部地区・西部地区〕

○ビデオが3方向から撮影されており、手元の様子や生徒の表情がよく観察できた。

その他

[東部地区]

○生徒の時間管理にBGMを使う発想など、部会協議では有用なアイデアを得ることができた。

[西部地区]

○依頼されたときには負担感があったが、「実践事例集」の作成は以後の指導に有効である。

II

[東部地区・西部地区]

●ビデオでの授業観察では、音声が聞き取りづらかった。

[東部地区]

●部会協議②では、障害種別でグループを組む必要があった。

[西部地区]

△ビデオを視聴であれば、無理に集まらなくても別の方法で参加する方法があったのではないか。

III

1 会場郡市、会場校の決定

[西部地区]

●年度当初、コロナの影響で研究大会開催の可否がはっきりせず、授業者に迷惑をかけた。

2 地区研究会

[東部地区・西部地区]

・ 特になし

3 資料の編集及び事前研修会

[東部地区]

●事前の幹事会が1回だけでは、授業者の負担が大きい。また、連絡調整も難しい。

●ビデオ撮影時には、どうしても事前打合せが必要である。

4 資料の製本や配布等

[東部地区・西部地区]

○メールによる資料の配付は合理的でよかった。(多数意見)

IV

1 運営分担や日程

[東部地区]

●本年度は、研究大会への参加が各校1人だったので、運営委員の集合はもっと遅くてもよかった。

[西部地区]

△14:00からの受付は、時間に余裕があってよかった。遠方からの参加者の時間的な余裕を考えれば、更に協議会の時間を短くしてはどうか。

2 研究授業

・ 特になし

3 研究発表

・ 特になし

4 研究協議

[東部地区]

●協議会②では、予め視点(話し合うテーマ)が分かっていた方が、話しやすかった。

○生徒の負担を減らすため、ビデオによる授業観察はよい。

○コロナに対応する座席配置がしっかりとできていた。

5 授業力向上のためのアドバイザー講義

[西部地区]

△今年度は行えなかったが、毎年あればよい。

V

[東部地区]

△特支級、特に自・情級の生徒を残し、担任が研究大会へ参加すると、環境の変化に弱い生徒にとっての負担が大きい。また、同時に残った生徒の対応を依頼された教員についても負担が大きい。担任が一斉に抜ける状況を避けるためにも、来年度以降も各校1名参加が望ましい。

△教科と同日の開催がよい。(複数の意見あり)

[西部地区]

△今年の授業者は若手の先生だったが、ICT機器の活用など若手らしい取組が見られてよかった。これからは若手の先生に特支級をどんどん経験してほしい。(複数)

<保健部会>

I

○健康教育の課題点について、教職員にアンケートをとり、担任の先生や生徒の求めている課題を取り上げたことで、健康教育の効果が上がった。

○校内で共通理解する資料等が、データに基づいており説得力があった。解説が詳細で分かりやすいことが、共通理解を得る手立てになっていた。

○生徒の実態の丁寧な分析や、教職員の意見も活かした説得力のある資料を作成・提示すること、また資

料を基に校務運営委員会や保健部会等の各組織で協議の場を設けたことで、職員の共通理解を図り学校全体での連携した取組につなげることができていた。

- カリキュラム・マネジメントシートを活用することで、取組の位置付けが可視化され、教職員または生徒が同じ視点、目標の達成に向けて組織力を高めながら運営でき、学校全体で取り組む効果的な健康教育につなげることができた。
- 調査方法、内容、対象等、調査の仕方を工夫することにより、健康課題をより焦点化することができ、学校や生徒の実態に合った、必要感に迫った健康教育を推進することができた。
- 学校で一人の養護教諭の力ではできないことも、地区の研修で会員同士がカリキュラムマネジメントシートを作成したり、実践例を持ち寄ったりしたことで、励みとなり自校での実践につながった。
- とやまゲンキッズ作戦を記入する際の指導資料を事前に作成することで、指導が必要な内容を養護教諭と教職員で共通理解でき、学級指導をどの学級でも効果的に行うことができた。
- 保健室来室のチェックカードの内容を工夫することで、その生徒の健康課題が明確になり、個別指導に活かすことができた。
- 生徒主体で行なわれるアクションプランが参考になった。生徒会全体と専門委員会の両方の働きかけで、効果が上がったと思った。学校全体を巻き込みやすくなり、生徒の主体性を育てるとともに、生徒に健康課題を「自分のこと」としてとらえさせるのに有効だった。
- A校の学級活動での、「大切な将来のために、今の生活を見直す必要がある」といった学習の動機付けが、生徒が「自分のこと」として課題を捉えるための手立てになっていた。
- 将来を考えることとメディア利用をつなげている点が主体的学習の動機づけとなっていた。
- 学校保健委員会で健康課題を共有することで、PTAの活動や学校医との連携が図りやすくなることから、学校保健委員会の議題や運営の工夫が大切だと分かった。
- 効果的、科学的な資料を用いた学活や個別指導で養護教諭の専門性が発揮されていた。委員会活動でも生徒のニーズを把握し、それを活かした活動を行うことは、生徒の主体性を高めることができ、よいと思った。

II

- 地域家庭との連携の場をカリキュラムマネジメント内にもっと設定するとよい。生徒の実践の場は家庭であり、保護者やPTA組織を積極的に巻き込んでいく体制を作っておくと、さらに学校、家庭双方の意識が高まり、より継続的で効果的な健康教育につながる。
- △就寝時刻調査などは、強調週間に取り組むこともよいが、継続的指導が大切である。生活ノートの項目に入っているとよいと思う。
- 実践資料について、実際に実践するには、時間の確保と協力体制を実現するための養教としてのマネジメントの難しさを感じた。
- △細やかに計画された素晴らしい取組だった。しかしその過程には、とても苦労したことやうまくいかなかったこと等もきっと多くあるのではないかと。そこからどのようにして実践へとつなげたのかが分かれば、「自分もやってみよう」とチャレンジできると思う。
- R-PDCAサイクルのCまではスムーズであるが、2順目の取組が難しい。教職員の連携や生徒会との連動、生徒の主体的活動があってこそ成り立つと思う。
- カリキュラム・マネジメントシートを作成することに満足するのではなく、生徒がどのように学んだか、何が身に付いたか、何ができるようになったかなどについても、広く横断的な視点で捉えていけるとよい。健康に関する資質・能力をどのようにどこまで育むのかを明確にした上で、R-PDCAサイクルで振り返り、改善しながら取り組めるとよい。
- 小学校での既習内容をいかに中学校で生かしていくか、習得した知識や技能を活用できる深い学びの実現に向けて、小学校と連携した内容、取組を考えられるのも養護教諭の特性を生かした取組につながるのではないかと。
- 行動の変容や実践の継続に向けて、家庭や地域との連携を工夫していく必要性を感じた。健康に対する意識を高めるための方法は分かったので、次は、行動変容や継続につながる指導の工夫が必要である。

III

- ①会場郡市、会場の決定
- 県西部の学校から滑川市まで行くのは、遠くて時間もかかり、負担が大きく感じた。今後は、富山市で開催できるとよい。
- △来年も感染予防を考慮する必要があるれば、どの学校も設備が整っているとは限らないので富山県総合教育センターの利用を考えてはどうか。
- ②資料編集及び事前研修会
- 取り組んだ実際のデータも載っていたことで生徒の反応等、取り組みの状況や効果等も知ることができた。
- 実践内容については、発表の先生への負担が大きい。
- △発表資料は10ページと決め、資料が必要な先生は個別に問い合わせ、データをもらえばいいのではないかと。
- 発表地区としては、コロナウイルス感染症の影響で事前研修が開催できず、地区会員の意見をまとめ上げることが不十分な面もあり大変だった。このような状況下を踏まえ、今後は、資料を簡略化するなど、違う形式・内容の研修方法も考えられると思う。
- ③資料の製本や配布
- 資料を各自で印刷して持参するスタイルは、印刷・製本の手間が省けて各地区の部長の負担軽減にもなりやすいと思う。今年度に限らず、今後も継続したらよい。資料の表紙や、間にはさむ色紙も不要となり

いいのではないか。

- 印刷するとき、資料がそれぞれのワードデータだったので、それぞれ開いて印刷するのは大変だった。PDFで一括で印刷できる形式にしてほしい。ただ、各校で使用しやすいようにワードデータもあるとありがたい。

△資料を中教研のHPから各自ダウンロードする方法も、よいかもしれない。

IV

①運営分担や日程

- 提案発表、部会協議、全体協議（意見交換）など、どれも時間配分がちょうどよかった。進め方も、よく考えられていた。

- 今回は、会場の移動があったので、休憩の時間が短く感じた。

②提案発表

△オンラインの発表配信、チャットでの質問等の研究大会があってもよいのではないか。

③部会協議

- 部会別協議では、事前に司会者と記録者が決められていたことで、協議時間を有効に使うことができた。また、予めグループ分けがしてあったので、様々な地区の先生からいろいろな実践が聞けてよかった。

- 部会協議①の際、提案発表者等が会場を周り、質問に答えたことで話し合いが深まった。その後、部会②の始めに、質問事項や回答について共通理解の場があったことがよかった。

- 事前記入ワークシートがあり、スムーズに意見交換できた。

- 1グループ1教室で、静かな環境で落ち着いてグループ協議ができ、よかった。

- 協議グループの人数がいつもより多く、一人ひとりの事前ワークシートの内容を話すだけで時間がかかり、協議後、まとめる時間がなくなった。全員の意見を聞けなかったグループもあった。全員の意見を聞くことはできても、部会協議を深める時間まではなかった。

△ブレインストーミングのように、まず自分の意見を紙に書き出し協議した方が、他の人の意見も知ることができるし、話し合いも深まるように感じる。

△分科会の司会等は、各地区の副部長や研究推進委員がした方が話し合いも深まり（会員の）勉強にもなるのではないかと思う。

△学校規模毎のグループ構成での協議だと、共通の悩み等が出て協議が深まるのではないか。

④その他

- 実践事例集や教材資料等の発表地区の取組の資料展示をじっくりとみる時間が少なかった。また、展示場所が会員の目に付きにくい場所だったため、見ている会員が少なかった。全体会の出入口付近に展示場所を設定する、オリエンテーション時か終了前などに紹介があると、より多くの会員が資料等を見ることができた。

V

- 発表に至るまでの課程、発表資料のまとめを考えると、発表が当たる市の負担が大きすぎる。今年は、部会を開催できる日や時間も少なく、感染症対策に関わる養教の負担も大きく、今後、発表地区の在り方など検討していくことも必要ではないかと感じている。部長の負担も大きすぎる。

△1つの市が研究発表すること自体を見直し、資質を高める講義の聴講、または、各地区が平等に、昨年度分の研究の概要について5分ずつ発表するなどの形に変えていってはどうか。

△例年、学校保健全般を通しての総合的な取組についての発表が多かったが、発表地区の負担軽減のために、1つの取組（感染症予防の取組、学校保健委員会、保健委員会活動、保健室での個別指導等）にスポットを当てた内容にする。

△アドバイザー事業の講演の時間を長くし、講演内容についてグループ協議を行うという形式もよいのではないか。